

第1回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 文化芸術部会 次第

令和7年7月15日（火）

午後2時～午後4時

ギャラクシティ レクリエーションホール2

- 1 新委員の紹介・委嘱状交付 ≪資料1≫
- 2 第2回全体会における意見及び今後の方針 ≪資料2≫
- 3 3分野計画の評価について ≪資料3～資料6-3≫
 - (1) 活動指標管理表・施策評価シート（令和6年度実施分）
 - (2) 評価体系・評価基準
 - (3) これまでの評価実施状況
- 4 新計画策定に向けたアンケート質問項目について ≪資料7-1～資料7-2≫
≪参考1-1～参考1-2≫
- 5 質疑応答・意見交換
- 6 今後の予定
 - (1) 第2回 文化芸術部会
日時：令和7年8月7日（木） 午前10時～12時
主な議題：文化芸術分野における評価結果、アンケート質問項目の決定
 - (2) 第3回 全体会
日時：令和7年9月中旬～下旬
主な議題：各部会における審議結果の共有、全体としての意見調整

【配布資料】

- 資料1 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿
- 資料2 第2回全体会における意見及び今後の方針
- 資料3 足立区文化芸術推進計画 活動指標管理表（令和6年度実施分）
- 資料4 足立区文化芸術推進計画 施策評価シート（令和6年度実施分）
- 資料5 - 1 足立区文化・読書・スポーツ推進計画 評価体系
- 資料5 - 2 足立区文化・読書・スポーツ推進計画（2次・3次評価） 評価基準
- 資料6 - 1 足立区文化芸術推進計画 評価実施状況（令和3年度）
- 資料6 - 2 足立区文化芸術推進計画 評価実施状況（令和4年度）
- 資料6 - 3 足立区文化芸術推進計画 評価実施状況（令和5年度）
- 資料7 - 1 アンケート質問項目検討表（事務局案・16歳以上用）
- 資料7 - 2 アンケート質問項目検討表（事務局案・小5・中1用）

（参考）

- 参考1 - 1 令和3年度 アンケート調査票（16歳以上用）
- 参考1 - 2 令和3年度 アンケート調査票（小5・中1用）

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿

区分	氏名	役職・団体等	部会
学識経験者 【会長】	いわ なが まさ や也 岩 永 雅 也	放送大学 学長	-
学識経験者 【部会長】	にし おか たつ ひこ彦 西 岡 龍 彦	東京藝術大学 名誉教授	文化芸術
	こ 小 いずみ ひろし 小 泉 ひろし	足立区議会議員	文化芸術
	おぎ の みえ こ子 荻 野 美恵子	東京都盲人福祉協会 女性部会長	文化芸術
	か さい たか ゆき之 葛 西 啓 之	株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長	文化芸術
	そぼ じま けん 賢 傍 嶋 賢	SOBAJIMA STUDIO 代表	文化芸術
	た じま のぞみ 田 島 のぞみ	区民（公募）	文化芸術
学識経験者 【部会長】	はら だ たか し史 原 田 隆 史	八州学園大学 教授	読書
	かわ むら みこと 川 村 みこと	足立区議会議員	読書
	こう そ とき こ子 高 祖 常 子	子育てアドバイザー／キャリアコンサルタント	読書
	た ぐち みき と人 田 口 幹 人	合同会社未来読書研究所 代表	読書
	なが おき りゅう じ二 長 沖 竜 二	図書館総合展運営委員会 事務局長	読書
	なか の り 紗 中 野 理 紗	区民（公募）	読書
	ふる せ きよ み美 古 瀬 清 美	区民（公募）	読書
学識経験者 【部会長】	みぞ ぐち のり こ子 溝 口 紀 子	日本女子体育大学 教授	運動・スポーツ
	いとう のぶゆき 伊藤 のぶゆき	足立区議会議員	運動・スポーツ
	き むら じゅん べい平 木 村 潤 平	パラリンピックトライアスロン選手 (一般社団法人ChallengeActiveFoundation 代表理事)	運動・スポーツ
	た なか ひろ子 田 中 ひろ子	公益財団法人足立区スポーツ協会 会長	運動・スポーツ
	はし やま たけし 猛 栞 山 猛	株式会社サンベルクスホールディングス スポーツクラブ事業部 事業部長	運動・スポーツ
	なか むら しげ お男 中 村 しげ お男	区民（公募）	運動・スポーツ

第 2 回全体会における意見及び今後の方針

1 現在の 3 分野計画の評価について

No	意見	今後の方針
1	<p><過去の評価資料の提供について></p> <p>今後の評価にあたり、過去にどのように助言や評価がなされ、それに対してどのように対応がなされたか、といった資料についても、提供していただきたい。</p> <p>【中村委員（公募区民）】</p>	<p>令和 3～5 年度の評価報告書（議会報告済み）に記載された「委員会からの助言」「助言に対する区の対応」を分野ごとに整理のうえ、第 1 回部会の開催前に情報提供する。</p>
2	<p><他の分野への意見について></p> <p>今後の評価にあたり、自分が所属する部会（分野）以外の他の分野へも、意見を出していきたい。</p> <p>【田島委員（公募区民）】</p>	<p>各部会の議論の中では、他の部会に属する委員から提出された意見についても、部会の中で取り上げ、議論の参考としていく。</p>
3	<p><令和 8 年度目標値の考え方について></p> <p>事業により、令和 8 年度目標値が令和 7 年度目標値を下回る場合があるが、どのような考え方によるものなのか。</p> <p>【岩永会長】</p>	<p>令和 8 年度目標値は、現在の計画の中間改定時に設定し、計画期間中は固定している。</p> <p>令和 9 年度からの新計画の策定にあたっては、必要により、見直しを検討していく。</p>
4	<p><評価調書以外の情報提供について></p> <p>今後の評価にあたり、評価調書以外にも、情報提供をいただきたい。</p> <p>【田島委員（公募区民）】</p>	<p>今後、パンフレットやチラシなどの参考資料について、要望に応じて適宜提供していく。</p>
5	<p><指標の追加について></p> <p>今後の評価にあたり、必要により、新たな指標の追加も検討するべきではないか。</p> <p>【中村委員（公募区民）】</p>	<p>令和 6 年度実績の評価は、現在設定している指標で実施する。</p> <p>令和 9 年度からの新計画の策定にあたっては、指標の追加も含め、見直しを検討していく。</p>
6	<p><評価体系資料の改善について></p> <p>事務局と推進委員会の役割に、やや分かりにくい点があるため、修正をお願いしたい。</p> <p>【古瀬委員（公募区民）】</p>	<p>修正のうえ、改めて提供する。</p>

2 新しい3分野計画の策定に向けたアンケート調査について

No	主な意見	今後の方針
1	<p><対象者数について></p> <p>対象者数を8,000件から3,000件に減らすとのことだが、有効回答数が約35%であることを踏まえて、分析に問題は無いかな。</p> <p>【高祖委員（有識者）】</p> <p>アンケート調査の性質上、対象者数に関わらず、どうしても偏りは発生する。</p> <p>対象者数を減らすことで、1つ1つの集団が小さくなり、偏りが際立ってしまう可能性もあるが、分析方法を工夫することで、技術的にクリアできると考えている。</p> <p>【岩永会長】</p>	<p>対象者数については、当初の想定どおり、3,000件で実施する。</p>
2	<p><実施方法について></p> <p>実施にあたり、紙とQRコードの併用を検討してみてもどうか。</p> <p>【高祖委員（有識者）】</p>	<p>令和3年度実施時は、紙とQRコードを併用していた。</p> <p>今回も、同様の方法による実施を検討していく。</p>
3	<p><調査票の質問順について></p> <p>質問順についても、検討範囲となるか。</p> <p>【長沖委員（有識者）】</p>	<p>質問順については、部会での議論を踏まえて、検討していく。</p>
4	<p><アンケート目的の記載について></p> <p>調査票にはアンケート目的が記載されていないが、回答者への分かりやすさを踏まえ、記載したほうがよいのではないかな。</p> <p>【しづや委員（区議会議員）】</p> <p>アンケート調査では、回答者の回答内容に影響を与えないよう留意する必要もある。</p> <p>調査票に記載するか別刷りとするか、また、何をどの程度まで記載するかについては、部会だけではなく、全体会で検討すべきだと考える。</p> <p>【岩永会長】</p>	<p>令和3年度実施時は、アンケート目的を別刷りで封入していた。</p> <p>今回、どのように実施するかについては、今後の部会、及び全体会での議論を踏まえて、検討していく。</p>

No	主な意見	今後の方針
5	<p><外国籍・障がい者への対応について></p> <p>外国籍の方への配慮といった視点から、調査票ヘルビを振るだけではなく、例えば、3か国語を用意するといった対応も必要なのではないか。</p> <p>【大竹委員（区議会議員）】</p> <p>障がい者の方への調査については、障がいの状況により課題が異なるという点も考慮する必要があるのではないか。</p> <p>【古瀬委員（公募区民）】</p> <p>外国籍の方や障がい者の方は、全体から見ると、やはり非常に数が少ない。</p> <p>量を取るアンケートで、何種類も調査票を用意するよりも、1つ1つのテーマや問題について、深く話を聞くことができるヒアリング調査の方がよい、という考え方もある。</p> <p>【岩永会長】</p>	<p>外国籍の方・障がい者の方への対応については、今後の部会、及び全体会での議論を踏まえて、検討していく。</p>

3 アンケート調査に係る有識者の出席について

No	主な意見	今後の方針
1	<p><外部有識者の出席について></p> <p>推進委員会としての議論を深め、より良い結果を導いていくため、今後、放送大学次世代教育研究センターの森村特命研究員に、審議会へ出席を求め、意見を聴いていきたい。</p> <p>【岩永会長】</p> <p>※ <u>足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第6条3、及び第8条による審議の結果、出席委員の過半数の賛成を得たため、推進委員会として決定</u></p>	<p>推進委員会の決定を受けて、今後、必要により、森村特命研究員へ、審議会への出席を求め、意見を聴いていく。</p>

※ 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例（抜粋）

（第6条3）

委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

（第8条）

委員会は、必要があると認めるときは、委員以外のものの出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

資料 3

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する	1-1	文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する	アートアクセスあだち「音まち千住の縁」（共催事業）	参加者数	音まち千住の縁主催プログラムの参加者数	11,704人	11,062人	19,970人	22,466人	20,000人	26,245人	A	<p>【総括】</p> <p>令和6年度は6つのプログラムを実施し、延べ参加者・来場者数は過去最高の26,245人に達した。要因としては、「Memorial Rebirth 千住」において香人公園での大規模イベントを開催したことが大きい（プログラム計9,956人）。また、4回目の開催となった千住・人情芸術祭「1DAYパフォーマンス表現街」においても、過去最高の8,604人を記録した。新規事業としては「千住藝大おぼけキャンパス」を開催した。継続事業としては「仲町の家」の運営や、区内小中学校へのエデュケーションプログラムを行う「イミグレーション・ミュージアム・東京（IMM東京）」、令和7年度に大規模イベント開催を予定する「千住だけじゃれ音楽祭」においてプレ企画を実施した。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>「音」をテーマに人と人、人と場所、人とアートとの縁を紡ぎ、アートを通じてまちの魅力を高め、文化振興を図ることを目的に、区民参加型のまちなかアートプロジェクトを実施する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>1 イベントの実施前からアーティスト・ボランティア・学生が、地域の人々との縁をつなぎながら各プログラムを実施することで新たな繋がりや魅力創出に資することができている。</p> <p>2 「IMM東京」では、内なる国際化が進む足立区において、アートで文化的多様性を学ぶプログラムを実施するなど、アートを通じた社会課題へのアプローチを試みた。</p> <p>以上の点から、当事業を継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>区内小学校に事業のチラシを配布したり、ホームページ・SNSで発信したりなど、事業の周知が来場者の増加につながった。プレスリリースも効果的に活用し、合計116件のメディア掲載があった。</p>	20,000人	13,000人	シティプロモーション課	
				Japan Festa in ADACHI（ギャラクシティ指定管理者事業）	参加者数	当日実施されるワークショップやホール公演等の参加者数	10,213人	0人	8,783人	10,215人	12,000人	7,067人	C	<p>【総括】</p> <p>1 令和6年度は、テーマを「江戸時代」とし、施設全体でより一体感のあるイベントとなった。</p> <p>2 講座やイベントでは、日本舞踊体験などのほか、妖怪の要素を取り入れた太鼓、笛の体験や「子ども鉛筆工づくり」の展示など行い、子どもたちが親しみやすく、来館するきっかけへとつながった。</p> <p>3 開催日数が2日間であり、令和5年度の3日間に減ったにも関わらず、7,067人と大勢のイベント参加があった。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>浅野温子読み語り、あべや〜道中令宵綱燗鳴り〜、お江戸大行列などの伝統文化の魅力や体験を通して子どもから大人まで幅広い世代に伝える。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>令和6年度の参加者アンケートにおいて、来場のきっかけの第1位が「興味があるイベント」、ワークショップがあった」との回答で全体の約35%となっており、今後も魅力的なイベントや講座を企画し、実施していく必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あだち広報やチラシ、ホームページ、SNS等により周知した。04thにおける学校への電子チラシの配布を行った。</p>	10,000人	22,000人	地域文化課	

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施設	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		3	継続	シアター1010鑑賞事業 (シアター1010指定管理者事業)	利用者数	シアター1010(文化芸術劇場)の利用者数 ※ 稼働率が90%を超えているため、現状維持目標とします。	191,345人(うち劇場) / 389,745人(全施設)	68,420人(うち劇場) / 159,303人(全施設)	113,415人(うち劇場) / 219,480人(全施設)	141,335人(うち劇場) / 243,127人(全施設)	84,000人(うち劇場) / 192,200人(全施設)	89,860人(うち劇場) / 188,903人(全施設)	A	<p>【総括】</p> <p>1 令和6年度は「桃月庵白酒」、「綾小路きみまろ」「クラブセブン」など6本の自主事業を実施し、入場率、満足度と平均90%を超えた。</p> <p>2 シアター1010が20周年、ギャラクシティが30周年であることを記念し、ギャラクシティ指定管理者と協働し、シアター1010では「上田正樹 R&B BAND」を実施した。</p> <p>3 11月から工事休館に入ったが、アウトリーチ事業を3本実施した</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>演劇を中心とした話題性のある公演で、あらゆる世代に優れた文化芸術に触れる機会を提供する。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>利用者アンケートでは各公演の満足度が高く、話題のある公演やイベントを求めている方の割合が高い。文化芸術を区内外に広める施設として、今後も継続して事業を実施する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>指定管理者は各種マスメディア(大手新聞やTVを含む)やエリアメディア、北千住駅構内の広告等を活用した情報発信を行った。区ではあだち広報への掲載やホームページおよびSNS発信、これまでの住区センター等の区施設のほか、保育施設や地域文化課包括支援センターへもチラシ配付などを行った。</p>	156,000(うち劇場) / 321,000人(全施設)	1 パラエティ豊かな公演ラインナップで、老若男女にバランス良くアピールできる企画を実施していく(具体的な公演予定は、公表可能な時期になるまでは非公表)。 2 前年度から実施していた改修工事が4月に完了する。5月からは施設が再開し、通常開館する。 3 千住宿400年記念について、指定管理者と協力しながら千住の街を盛り上げていく。 令和7年公演予定:「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」、「立川志らく」、「大誘拐」等 ※ 令和7年度目標値は、工事休館を考慮しない令和6年度目標値に、(令和8年度目標値-工事休館を考慮しない令和6年度目標値) *1/2を加えた値。 なお、令和7年度は4月のみ休館するため、上記目標値の11/12を目標値とし、1,000人未満は四捨五入する。	190,000人(うち劇場) / 390,000人	地域文化課
		4	継続	アトリウムコンサート	観客数	アトリウムコンサートの観客数	1,365人	0人	0人	819人	945人	1,274人	A	<p>【総括】</p> <p>令和6年度は6回から8回に実施数を増やし、観客数は59%増であった。令和7年度目標の1,350人は150人×9回実施の数値。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>区民に気軽に音楽を聞く機会を提供する。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>区民が文化芸術にふれることができる機会を設け、より文化芸術を身近に感じてもらうためにも今後も継続が必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あだち広報、区ホームページ、区SNSで周知を行う。</p>	1,350人	本庁舎アトリウムで年9回開催予定。	1,530人	地域文化課
		5	継続	東京藝術大学連携・芸術によるまちづくり事業	・藝大千住キャンパスや地域学習センター、民間施設等で開催したコンサートイベントの参加者数および実施回数 ・動画配信毎の視聴回数の合計及び動画本数	・藝大千住キャンパスや地域学習センター、民間施設等での区内全域において開催したコンサートイベントの参加者数および実施回数 ・動画配信ごとの視聴回数の合計および配信した動画の本数	193人3回	109人2回	260人4回	401人4回	400人4回	603人5回	A	<p>【総括】</p> <p>「竹の塚地域学習センター」および「ギャラクシティ」のプラネタリウムでのアウトリーチ公演を開催した。また、藝大千住キャンパスで「文化の日音楽祭」、「ピアノリサイタル」を開催した。公演実施の際は無料託児を用意し、小さなお子様連れの方も参加しやすいようにした。また、大人の初心者・未経験者を対象とした等のワークショップを行い、家族等を観客として招き練習の成果を発表した。なお、藝大千住キャンパスでのコンサートおよびワークショップは、後日YouTubeにて動画配信を行った。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>コンサートやワークショップを通して、区民の文化芸術への関心を高め、文化芸術を通して生活の質の向上及び区内文化芸術振興に資することを目的としている。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>東京藝術大学と連携することで、質の高い音楽を無料で聴ける機会を提供し、誰もが身近に音楽を聴ききっかけとなる本事業は、今後も必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あだち広報、区ホームページ、区SNS、区フェイスブック、デジタルサイネージ、チラシ、ポスター、アトリウムセンターホームページ、ブログ、SNS等で周知を行った。</p>	400人4回	1 令和7年度は、「西新井文化ホール」などでのアウトリーチおよび藝大千住キャンパスでのコンサートを実施していく。 2 藝大千住キャンパスでのコンサートおよびワークショップは、手軽に多くの人が見られるよう、記録動画を配信する。 3 初心者・未経験者を対象としたワークショップを実施し、楽器に触れる楽しさや喜びを感じる機会を提供する。	500人4回	地域文化課
							-	14,659回4本	3,176回2本	14,233回6本(3公演)	5,200回3本	6,629回7本(3公演)	A		5,200回3本	5,000回2本	地域文化課	

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課	
		6	新規	ストリートピアノ事業	参加者数	ストリートピアノ事業への参加者延べ数 ・ギャラクシティ ・興本地域学習センター ・アウトリーチ アウトリーチ回数		ギャラクシティ 14,032人	ギャラクシティ 16,034人	ギャラクシティ 18,118人	ギャラクシティ 18,000人	ギャラクシティ 27,687人	A	【総括】 1 北千住マルイ入口前およびJR北千住駅改札口にてアウトリーチを実施し、延べ104名の利用者があった。プロの演奏者もゲストで招き、多くの聴衆が訪れ、日常の中で音楽を楽しむイベントを提供した。 2 ギャラクシティ及び興本地域学習センターでは、誰でも強けるピアノを常設しており、ギャラクシティでは多数の参加者が訪れた。また、令和5年度から「あやセンターぐるぐる」にも設置することになり、気軽に楽しめる場所が増えた。 【事業の目的（施策への貢献）】 ストリートピアノを通じて、気軽に音楽に触れる機会を創出することで文化芸術の裾野を広げる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 身近で気軽に音楽に触れる貴重な機会を提供しており、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 チラシ、広報、区ホームページ、区SNSなどで周知し、アウトリーチは会場へのポスター掲示や声掛け、当日の駅構内アナウンスなど、通行者も興味を持ってよう工夫を行った。また、ニュースリリースを行ったほか、ギャラクシティのストリートピアノ常連参加者に周知し参加を促した。	ギャラクシティ 18,000人	興本 617人	アウトリーチ 120人 2回	ギャラクシティ - 興本 655人 アウトリーチ 120人 2回	地域文化課
		7	新規	文楽鑑賞事業	参加人数	・「はじめての文楽講座」の参加者数 ・文楽公演区民無料招待参加者数	-	-	-	267人 232人	200人 100人	232人 229人	A	【総括】 1 文楽に触れたことのない人でも楽しめるよう、国立劇場と連携し「初めての文楽講座＜義太夫節編＞＜人形編＞」を行った。参加延べ人数は232人で、実施後アンケートの満足度は96%であった。 2 シアター1010の文楽公演にて、のべ250席の無料招待を実施した。また、「豊竹若太夫襲名披露前夜祭」（入場無料）へ100席の区民招待枠を設け、区民が伝統芸能をより身近で触れられるよう事業を実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 区民等が伝統芸能に触れる機会を提供するため、講座や無料招待事業を実施していく。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 1 シアター1010で公演を実施することで、今まで文楽公演を見たことがない区民との物理的な距離が縮まり、文楽に触れていただく機会につなげるため必要である。 2 国立劇場改築に伴うシアター1010の公演会場選定を受け、令和4年6月に独立行政法人日本芸術文化振興会との連携協力協定締結により、事業を推進している。 【事業の周知】 公演の区民招待や「初めての文楽講座」をあだち広報、区ホームページ、区SNS、チラシ、の配付などで周知した	200人 100人	200人 100人	200人 100人	1 文楽公演無料招待などの区民還元事業等を実施し区民等が伝統芸能に触れる機会を創出する。	地域文化課
		8	継続	シアター1010文化のちから体験会	来場者数 公演回数	文化のちから体験会（子どもと大人の文化芸術事業）に会場した人数	新規	1,889人 10回	1,404人 6回	1,358人 6回	1,600人 3回	1,391人 7回	A	【総括】 部公演でチケット買い取り方式を継続している。子ども向けには「はじまるよ！あつりさとチョッピーの森」、若者向けには舞台「夏露～NATSUGASUMI～」、社年向けには「秋川雅史 千の風になつてコンサート」を実施し、質の高い舞台芸術を提供した。 【事業の目的（施策への貢献）】 区民が文化芸術活動に触れるきっかけづくりの場を、ワークショップやアウトリーチ事業により創出する。また話題性のある公演により優れた文化芸術を身近なものとして享受できる機会を提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区民が無料で質の高い文化芸術に触れる機会が貴重であり、引き続き事業を実施する必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、庁内掲示板、各施設へのチラシ配布、ホームページやSNSによる情報発信を行った。	1,600人 3回	ア 若者向け舞台公演（未定） イ 社年以上向け「天童よしみコンサート」（10月） ウ 子ども・親子向け「ふたりのももたろう」コンサート（11月）	6,500人 10回	地域文化課	

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		9	継続	郷土芸能を保存・伝承する団体の支援	鑑賞者数 役員会開催数	郷土芸能鑑賞会・郷土芸能大会の鑑賞者数 役員会の開催のべ数	1,014人 6回	0人 4回	0人 0回	250人 4回	600人 4回	235人 4回	D	【総括】 1 郷土芸能大会は16団体が出演し、区内のお囃子や獅子舞の鑑賞会を実施した。しょうぶまつり、区民まつりにおいてもお囃子演奏や体験を行い、来場者へ鑑賞の機会を提供した。郷土芸能鑑賞会は会場の郷土博物館が改修中のため全て中止となった。 2 役員会は4回開催した。 【事業の目的（施策への貢献）】 伝統芸能の継承、保存と観賞機会の提供 【事業の必要性（ニーズの把握）】 伝統芸能の保存・継承のために有効な事業であり、観賞のニーズもあるため、今後の実施していく必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、区ホームページ、チラシの配付、ポスター掲示など	600人 3回	1 郷土芸能大会は西新井文化ホールで10月に開催予定である。郷土芸能鑑賞会は、郷土博物館オープニングを含め5回を予定している。また、しょうぶまつり、区民まつりのイベントでの演奏会も提供していく。 2 目標値下方修正、当初の目標7回郷土芸能保存会事業計画により減。	1,200人 7回	地域文化課
		10	継続	コンサートinミュージアム（公社自主事業）	実施回数	参加5施設（石洞美術館、わたなべ音楽堂、昭和の家、六町ミュージアム、BUoY）でのコンサート等の催し物回数	5回	2回	5回	4回	4回	4回	A	【総括】 六町ミュージアム・フローラと昭和の家<平田邸>でコンサートを実施した。多くの人が観覧できるように、定員を増やし各施設2回計4回の公演を行った。また、これまでに作成した全5施設のコンサート動画をYouTube配信し、区民に視聴の機会を提供した。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内5ヶ所の民間文化施設の特徴や魅力を最大限に活かしたコンサートや催し物を区民に届ける事業であり、区民への文化発信と、地域への愛着や誇りの醸成を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 毎回定員を超える応募がある。また、区民に区内民間文化施設の魅力やコンサート等の楽しさを紹介する事業であるため、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 トキメキやホームページ、フェイスブック等による周知の他、コンサート動画の情報を加えた事業紹介パンフレットを作成・配布した。また、足立朝日等へコンサート実施の情報を提供を行った。	4回	1 令和7年度は、2つの施設で各2回計4回の公演を実施する。また、他の1施設では「子どもの未来応援アウトリーチコンサート」を行う。 2 令和2年度から作成を続けた全5施設のコンサート動画をYouTubeで配信する。	5回	生涯学習振興公社
		11	継続	西新井文化ホール公演事業（ギャラクシティ指定管理者事業）	観覧者数	西新井文化ホールで行われる公演の観覧者数	17,436人	10,944人	22,324人	26,553人	20,000人	25,645人	A	【総括】 令和6年度は、コロナ禍の影響以前とほぼ同様の運用を行うことができた。 令和6年度開催イベント 1 ミュージックハーモニー 2 THE GREATEST ENTERTAINMENT SHOW3 3 ファミリーミュージカル「アルプスの少女ハイジ」 4 ギャラクシティクリスマスコンサート2024 等 【事業の目的（施策への貢献）】 区民の芸術、文化とのふれあいと創造的文化活動に寄与することを目的とし、足立区の音楽や文化活動の中心となるべく、様々な公演を企画している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 複数の層に向けた、多様な公演を行い、老若男女多くの方に参加いただけている。 【事業の周知】 あだち広報、ホームページ・SNS、チラシ配布し周知した。	20,000人	1 多くの方が文化・芸術に触れる機会を創出していく。 【令和7年度開催予定の公演例】 ア オープンステージスタインウェイを弾いてみよう イ ライブ絵本「3つのものがたり」 ウ 米岡空軍太平洋音楽隊「ファイナル・アプローチ」 ※ 令和7年度目標値は令和6年度と同数とした。	20,000人	地域文化課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		12	継続	郷土博物館の企画展・出張博物館・ワークショップ事業	来場者・参加者数	郷土博物館が実施する企画展、出張博物館、ワークショップ等の来場者、参加者数	19,888人	7,123人	11,293人	1,190人	600人	1,306人	A	【総括】 1 大規模改修に伴い令和5年1月から令和7年3月まで長期休館中である。 2 6月にはしょうぶまつりとの連携企画として、あやセンターぐるぐるにて絵馬の出張展示とワークショップを行い、計550人が来場した。 3 A-Festaへ出展し、絵馬づくりとポストカードづくりのワークショップを行った。 4 電子展覧会として、令和6年3月に刊行した文化遺産調査マンガ『ビビビ美アダチ』とタイアップした展覧会、およびリニューアル後の新常設展示にて展示予定の資料を紹介する展覧会を開催した。 【事業の目的（施策への貢献）】 電子展覧会や出張博物館、イベント等でのワークショップを通じて、楽しみながら足立区の歴史や文化の魅力に触れる機会を創出する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 企画展や電子展覧会・出張博物館などのアウトリーチによって、足立区の歴史や文化に親しむ機会を創出するため、今後も継続していく必要がある。 【事業の周知】 展覧会やイベント情報を区の広報紙やホームページ、SNSを活用して周知した。	21,000人	1 令和7年度は、「千住・足立の文化遺産展」と題し、世界最古の美術雑誌『園華』に掲載された作品を中心に展示する企画展を二部構成で開催する（前期：令和7年4月26日（土）～令和7年6月29日（日）、後期：令和8年2月14日（土）～令和8年4月12日（日））。 2 令和7年度は千住宿開宿から400年となるため、特別展「千住宿400年」を開催する（令和7年10月21日（火）～令和8年1月11日（日））。また、シアター1010にてシンポジウムを行う。 3 令和7年度、台湾にある故宮博物院南院および長野県にある北斎館へ浮世絵の貸し出しを行う。各貸し出し先とタイアップした展示を電子展覧会として行っていく。	20,000人	地域文化課（郷土博物館）
					電子展覧会閲覧数	ホームページによる電子展覧会のアクセス数	新規	-	7,739回	9,523回	10,000回	3,348回	D		10,000人			

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する	1-2	子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する	ギャラクシティ事業 (ギャラクシティ指定管理者事業)	来館者数	子ども未来創造館の来館者数 ※ 保護者等を含み、かつ区外からの来館者数も含む。	1,391,494人	504,656人	1,003,752人	1,304,037人	1,500,000人	1,305,710人	A	<p>【総括】</p> <p>ギャラクシティ30周年記念を迎えたことに加え、千住宿400周年とコラボした「Japan Festa in ADACHI」などのイベント行うことができた。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>学力向上や社会性を育むとともに健全育成の推進のため、遊んで学べる体験型複合施設の特徴を生かし多世代との交流や子どもたちへの体験機会等を提供する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>令和6年度の来場者数は130万人を超え、コロナ禍の影響以前の来館者数とほぼ同等の人数まで回復している。また、令和5年度と比較し微増となった。ギャラクシティの需要は変わらずあり、区内外からの来場者も多く、特に親子連れのニーズは極めて高い。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あだち広報、ギャラクシティのホームページ、チラシ、SNS等で事業周知を行っている。また、定期的に事業をまとめたパンフレットを作成し、区内小学校等に配付した。</p>	1,500,000人	1,500,000人	地域文化課	
				東京藝術大学連携事業・音楽教育支援事業	実施校数割合 実施校数 参加者数	区内の小・中学校及び子ども園を訪問し、音楽教育支援活動としての音楽鑑賞会及びワークショップ、音楽科授業の指導補助、部活動の指導補助などの開催校となった「子ども園」・「小学校」・「中学校」の割合。	50% 53校 10,338人	40% 42校 4,828人	57% 59校 6687人	68% 70校 10,742人	70%	47% 48校 6,922人	B	<p>【総括】</p> <p>令和5年度末をもって、大学の担当教授が退任となったが、大学と密な調整を図ったことで、後任教授による事業運営を維持することができた。</p> <p>一方、区内小中学校の音楽教諭の多くが人事異動となり、着任直後の教員を中心に申込み見送るケースが多く発生したことで、実施校数が減少した。</p> <p>しかし、音楽教諭の研修事業において、そのような学校も含め音楽教諭からの意見を踏まえて研修内容を決定する等、大学・小中学校・区の3者で調整・改善を進めながら事業を実施することができた。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>区内小中学校の児童生徒の文化芸術に対する関心を高め、豊かで健全な育ちに寄与することを目的としている。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>児童生徒が専門的機関（東京藝術大学）による演奏や指導を受けられる事業であり、児童生徒だけでなく、教育現場からも好評を得ている。良質な音楽を体験できる機会であることから、今後も専門的機関と連携した当事業は必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>大学から区内小中学校全校へ、年度当初に実施申込書を送付して、希望を確認調整している。</p> <p>令和6年度は、音楽教諭の人事異動が多く、年度当初の募集では、申込判断が難しいとの意見があった。</p>	70%	54% 57校 8,500人	青少年課	
				区立小学5年生向け芸術鑑賞体験事業	・実施学校率 ・参加人数	鑑賞体験に参加した区立小学校の割合 事業に参加した児童数	-	-	100% 4,948人	100% 4,765人	100% 5,121人	100% 4,739人	A	<p>【総括】</p> <p>全ての区立小学校5年生を対象に「劇団四季」による「美女と野獣」の観劇を実施した。学級閉鎖等なく67校すべての学校が参加した。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>児童の豊かな心の育成のために、良質な劇やミュージカルなどの文化芸術の鑑賞機会を提供する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>参加児童の満足度は非常に高く、96%が満足であると答えた。また、アンケートの感想では「勇気をもらった」「舞台上に立ちたいと思った」など前向きなものが多く、事業実施の効果は大きい。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>「ワケあり区、足立区。」と銘打ったプロモーションの中で「EBPMに基づく施策展開」の一つとして発信した。2月中旬に島根小学校で行った発信では報道機関も訪れ取材が行われた。</p>	100% 5,009人	100% 4,900人	地域文化課	

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 x: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	新規	シアター1010文化のちから体験会【再掲】(1-I.No.8)	来場者数 公演回数	文化のちから体験会(子どもと大人の文化芸術事業)に来場した人数	新規	1,889人 10回	1,404人 6回	1,889人 10回	1600人 3回	1391人 7回	A	<p>【総括】</p> <p>一部公演でチケット買い取り方式を継続している。子ども向けには「はじまるよ!あつりさとチョッピーの森」、若者向けには舞台「夏霞~NATSUGASUMI~」、壮年向けに「秋川雅史 千の風になってコンサート」を実施し、質の高い舞台芸術を提供した。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>区民が文化芸術活動に触れるきっかけづくりの場を、ワークショップやアウトリーチ事業により創出する。また話題性のある公演により優れた文化芸術を身近なものとして享受できる機会を提供する。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>区民が無料で質の高い文化芸術に触れる機会は貴重であり、引き続き事業を実施する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あだち広報、庁内掲示板、各施設へのチラシ配布、ホームページやSNSによる情報発信を行った。</p>	1600人 3回	1 舞台鑑賞を中心に事業を継続し、区民へ文化芸術に親しむ機会を提供する(具体的な公演予定は、公表可能な時期になるまでは非公表)。 ア 若者向け舞台公演(未定) イ 社年以上向け「天童よしみコンサート」(10月) ウ 子ども・親子向け「ふたりのももたろう」コンサート(11月)	6,500人 10回	地域文化課
		5	継続	子どもの未来応援アウトリーチコンサート(公社自主事業)	実施回数	コンサート実施回数 ※文化施設での開催と訪問による開催が、年度によって違うため、参加者数ではなく実施回数を活動指標とします。	1回	2回	3回	7回	3回	3回	A	<p>【総括】</p> <p>区内小学校において特別支援級のある学校のうち多くの児童が在籍する2校を選出し、打楽器の即興演奏を行う参加型の催しを各校1回ずつ2回、また子ども食堂を利用する子ども・保護者を対象に演劇鑑賞体験を1回、計3回のアウトリーチイベントを実施した。各場面にて子どもたちに様々な文化体験の機会を提供した。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>比較的芸術体験が少ない子どもに向け、プロの演奏家による音楽鑑賞や体験の機会を提供する事業であり、子どもの体験機会を増やし、逆境に立ち向かう生きる力の向上を目的として実施している。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>実施した施設や参加者から好評を得ている。また、子どもたちが、間近でプロの生演奏や演奏家とのコミュニケーションを体験できる事業であるため、今後も継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>特別支援学級は学校から児童および希望する保護者に体験いただく機会の提供周知をした。また子ども食堂では、定期的に通う子ども・家族向けに向けSNSにて周知した。</p>	2回	1 プロの演奏家が区内施設に出向いて行うアウトリーチコンサートを一日2回公演で実施する。 2 子どもたちの興味関心を高めるように、出演者の選定やプログラムの調整を行う。 3 コンサートと共に、実施する美術館の絵画鑑賞も行う。 4 対象を区の居場所施設(不登校支援)に登録している児童・生徒とする。	3回	生涯学習振興公社

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 x:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		6	継続	足立ジュニア吹奏楽団支援 (区委託事業)	団員数	足立ジュニア吹奏楽団の団員数	47名	42名	35名	28名	60名	38名	B	<p>【総括】 西新井文化ホールや活動拠点の近隣小・中学校でのコンサート、区民体育大会総合開会式や介護付ホームへの派遣演奏など様々な演奏会を実施できた。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】 区内の小学4~6年生を対象に、吹奏楽の演奏技術を習得させることにより、生涯に渡り音楽を愛好する児童の育成を図り、区の音楽文化を支える人材の輩出に寄与することを目的として活動している。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】 プロの指導者や下での練習や様々な場所での演奏会は、子どもたちにとって貴重な体験であることに加え、区内各所で演奏披露することによって多くの区民が身近な場所で音楽に触れることができる事業であるため、今後も継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】 公社ニューストキメキやホームページ、フェイスブックの他、小学校でのポスター掲示やリーフレットの配付に加え、団ホームページ開設やC4th発信などにより、楽団の活動紹介や団員募集などの周知を行った。</p>	50名	50名	生涯学習振興公社	
		7	継続	学習センター事業【子ども・子育て世帯向け講座】 (各センター指定管理者事業)	事業数	生涯学習センター及び地域学習センター（13センター）の子ども・子育て世帯向け講座数 ※ 数日通しで行う講座は、通算で1回とし、同じ内容の講座でも数回に分けて実施する場合は、その都度1回とカウントします。	842事業	626事業	1,343事業	1,235事業	850事業	1,252事業	A	<p>【総括】 「あだちワークわーく in Summer」の実施にともない、体験講座（自由研究に役立つ体験、将来の夢や仕事につながる体験）について一部無料化するなど積極的に実施した。参加者数は昨年度から3,059人増加し、21,733人となった。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】 子どもの成長に応じた講座を開催することで、文化芸術に触れる機会を創出する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもや子育て世帯が芸術に触れる機会を創出するために、文化芸術の魅力をより多く感じることができる当事業の継続は必要である。</p> <p>【事業の周知】 あだち広報、ミニコミ紙、SNS等により周知している。</p>	850事業	<p>1 安定的に子どもの成長過程に応じた文化芸術に触れられる機会が提供できるよう、体験型の講座（仕事体験や囲碁・将棋等）を工夫して開催していく。</p> <p>2 令和5年度から実施している夏休み経験・体験無料講座等の充実や昨年度からの夏休み期間中の子ども居場所事業を引き続き行う。</p> <p>3 子育て世代への周知ツールとして、SNSを活用した周知に力を入れていく。</p>	850事業	生涯学習支援課
		8	継続	足立の歴史を知るイベント	参加者数	年3回程度、伊興遺跡公園にて開催するイベントの参加者数（子どものみ）	416人	0人	697人	1,080人	700人	1,211人	A	<p>【総括】 子どもたちが管玉づくりや火起こし体験などを行うイベント「古代ものづくりマスター」は、2日間続けて来場する参加者もあり、のべ参加者数は1,211人と、目標の700人を超えた。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】 イベントを開催するなど通じて、子どもたちが足立の歴史に関心を持つきっかけを提供する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】 イベント内で実際に埴輪や管玉を作ることによって、子どもたちが楽しみながら歴史を学ぶことから、今後も継続していく必要がある。</p> <p>【事業の周知】 例年、区内の全小学校及び区内図書館、地域学習センターへポスターとチラシを配布するとともに、あだち広報や区ホームページにて周知している。</p>	700人	<p>1 子どもたちが古代に興味を持つきっかけとなるような内容とする。</p> <p>2 春と夏に一回ずつ開催予定。春は例年通り工作を行う。夏は熱中症対策として屋内で行い、子供たちの夏休みの宿題の補助になるような調べ学習を予定している。</p>	560人	地域文化課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課			
		9	継続	小学校・地域学習センターへの歴史の出前事業	実施回数 参加者数	区内小学校及び地域学習センターで実施する出前授業の回数 ※ 1回に6年生のクラスを全てまとめて行う(1~2クラス/1クラス約30名)。	【小学校】 4回 90人	【小学校】 0回 0人	【小学校】 0回 0人	【小学校】 3回 148人	【小学校】 5回 150人	【小学校】 0回 0人	×	【総括】 小学校からは校長会等を通じて周知をしたが依頼は0回だった。地域学習センターからは1件依頼があった。今後は展示館の事業について頻度を上げて周知するなど工夫していく。 【事業の目的(施策への貢献)】 区の学芸員から、より詳しい足立の歴史を学ぶことで、小学生に興味、関心をもってもらう。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 身近で気軽に歴史に触れる機会を提供しており、今後の継続が必要である。 【事業の周知】 小学校には校長会でお知らせと申し込み書を配布し、事業を効果的に実施している。地域学習センターに対してもちらし等を配布することで出前講座の応募を増やしていく。	【小学校】 3回 90人	1 小学校や地域学習センターの出前授業の依頼に基づき実施していく。	【小学校】 5回 150人	地域文化課			
							【地域学習センター】 2回 32人	【地域学習センター】 1回 20人	【地域学習センター】 1回 20人	【地域学習センター】 0回 0人	【地域学習センター】 5回 100人	【地域学習センター】 1回 20人	D		【地域学習センター】 3回 60人		【地域学習センター】 5回 100人				
		10	新規	ストリートピアノ事業【再掲】(1-1No.6)	参加者数	ストリートピアノ事業への参加者延べ数 ・ギャラクシティ ・興本地域学習センター ・アウトリーチ アウトリーチ回数	-	ギャラクシティ 14,032人	ギャラクシティ 16,034人	ギャラクシティ 14,032人	ギャラクシティ 18,000人	ギャラクシティ 27,687人	A	【総括】 1 北千住マルイ入口前およびJR北千住駅改札口にてアウトリーチを実施し、延べ104名の利用者があった。プロの演奏者もゲストで招き、多くの聴衆が訪れ、日常の中で音楽を楽しむイベントを提供した。 2 ギャラクシティ及び興本地域学習センターでは、誰でも弾けるピアノを常設しており、ギャラクシティでは多数の参加者が訪れた。また、令和5年度から「あやセンターぐるぐる」にも設置することになり、気軽に楽しめる場所が増えた。 【事業の目的(施策への貢献)】 ストリートピアノを通じて、気軽に音楽に触れる機会を創出することで文化芸術の裾野を広げる。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 身近で気軽に音楽に触れる貴重な機会を提供しており、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 チラシ、広報、区ホームページ、区SNSなどで周知し、アウトリーチは会場へのポスター掲示や声掛け、当日の駅構内アナウンスなど、通行者も興味を持ってよう工夫を行った。また、ニュースリリースを行ったほか、ギャラクシティのストリートピアノ常連参加者に周知し参加を促した。	ギャラクシティ 18,000人	1 千住宿開宿400年記念イベントとコラボし、JR北千住駅改札口にて、ゲストプレイヤーも招いてイベントを行う。	ギャラクシティ - 興本 617人	ギャラクシティ - 興本 655人	アウトリーチ 120人 2回	アウトリーチ 104人 2回	地域文化課
		11	継続	郷土博物館・伊興遺跡公園の社会科見学受け入れ事業	来校数	郷土博物館及び伊興遺跡公園の社会科見学受け入れ学校数 ※郷土博物館は令和5年1月~令和7年3月の期間休館	34校	18校	20校	9校 717人	12校	6校 217人	C	【総括】 1 伊興遺跡公園では、小学校3校の社会科見学を受け入れ、施設見学や火起こし体験等を行った。また、中学校3校の職場体験を受け入れ、体験学習とともに施設見学を行った。 2 郷土博物館は休館中のため、社会科見学の受け入れも休止している。 【事業の目的(施策への貢献)】 学校教育の一環として、足立区の歴史や文化について学習する機会を提供している。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 次世代を担う区内小学生にとって、足立区の歴史や文化を学芸員の説明を受けながら観覧し、より詳しく学べる貴重な機会となる事業であるため、今後も継続していく必要がある。 【事業の周知】 校長会を通じて区内小学校長や社会科部会の教職員に周知した。また、区ホームページにて区民に周知している。	12校	1 伊興遺跡公園については今後とも積極的に施設見学を受け入れていく。 2 郷土博物館は、4月26日(土)のリニューアルオープンより、社会科見学、職場体験の受け入れを再開する。	52校	地域文化課			

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		12	新規	地域文化倶楽部（あだちこくらぶデジタルミュージック部）	参加者数	Gがくえんへ参加した児童生徒数	-	17人	19人	22人	30人	27人	A	<p>【総括】 音楽制作ソフト「ガレージバンド」を使用し、児童生徒が論理的かつプログラミング的思考で音楽制作を行った。また、音楽に対する意識も講座が進むにつれ大きく変化し、一層積極的に独自にアレンジし作品を制作するようになった。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】 音楽に苦手意識を持つ子も安心して楽しみながら参加できる場を提供し、成功体験を重ねることで、自己肯定感を育むことにつなげる。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】 ギャラクシティでは、本事業以外にも「Gがくえん」として中学生・高校生を対象としたクラブ活動事業を併せて実施しており、小学生も対象としている本事業と合わせ、小学生から高校生まで切れ目のない学校外の体験活動を提供できるため継続が必要である。</p> <p>【事業の周知】 ホームページ、SNS、イベント情報誌、チラシ</p>	30人	1. あだちこくらぶ DTM部（デジタルミュージック部） 全8回講座を3期実施（計24回予定）	30人	地域文化課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
2	区民の活発な文化芸術活動を促進する	2-1	1	継続	各学習センター事業 (各センター指定管理者事業)	事業数 参加者数	生涯学習センター及び地域学習センター(13センター)の事業数および参加者数 ※ 数日通して行う講座は、通算で1回とし、同じ内容の講座でも数回に分けて実施する場合は、その都度1回とカウントします。	2,650 事業 63,981人	1,795 事業 22,160人	4,029 事業 67,469人	3,741 事業 75,937人	2,650事 業	3,829 事業 107,123人	A	<p>【総括】 趣味教養的な講座や3分連携講座など気軽に参加可能なものから、大学や医療機関と連携した高度で専門的な講座まで多彩な事業が実施できた。また、Zoom等を活用したオンライン講座やオンデマンド配信など、IoTを活用した事業も実施した。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】 文化芸術に関する講座の開催を通じて、体験や活動の機会を提供している。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】 身近に文化芸術の魅力を感じることができる機会を継続的に提供していくため、今後も継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】 毎月25日号のあだち広報で一覽で掲載するほか、読みたくなるミニコミ紙の作成、SNS等により周知している。</p>	2,650事 業	2,650事 業 63,981人	生涯学習支援課
					2	2	継続	文化・読書・スポーツ活動協 創推進事業 「ちよいスポ」「ちよいカ ル」「●●読み」	事業実施回数 事業参加者数	・読書・スポーツ分野と 連携した、協創推進事業 の年間の総実施回数、参 加者数、実施センター数 ・令和元年度新規事業 ・当面の目標として、複 合施設のある地域学習セ ンター全館での実施を目 指します。	新規 752回 5,954人 15セン ター	1,130回 12,236人 15人 センター	1,016回 9,781人 15セン ター	1,055回 10,269人 15セン ター	1,044回 11,773人 15セン ター	A	<p>【総括】 20~40歳代の子育て世代の父親、母親を主な対象として、全15施設で実施した。 実施回数では目標値をやや下回ったが、参加者数では目標値を上回る結果となり、R8目標値からはまだ乖離もあるものの、各分野に親しむ人の増には一定程度寄与できたと考える。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】 文化・読書・スポーツ分野計画に基づき、従来型の分野別のアプローチだけでなく、「読書×スポーツ」「読書×文化」「スポーツ×文化」など、それぞれの施設利用者が異なる分野へと関心・行動を広げる働きかけに取り組んでいくことで、共通理念である「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」の実現を目指す。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】 「読書をしている層は、文化やスポーツに関しても一定の興味・関心があり、きっかけがあれば文化・スポーツ分野の行動に移る可能性がある」というアンケート分析結果に基づき、図書館や地域学習センターなどの身近な施設で気軽に親しめる事業であり、引き続き、必要である。</p> <p>【事業の周知】 あだち広報、ホームページ、チラシ、豆の木メール、SNS(LINE、X(旧Twitter)、Facebookなど)、ミニコミ紙などにより周知している。</p>	1,096回 12,362人 15セン ター

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 x:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		3	継続	アートアクセスあだち「音まち千住の緑」(共催事業) 【再掲】(1-I-No.1)	参加者数	音まち千住の緑主催プログラム の参加者数	11,704人	11,062人	19,970人	11,000人	20,000人	26,245人	A	<p>【総括】 令和6年度は6つのプログラムを実施し、延べ参加者・来場者数は過去最高の26,245人に達した。要因としては、「Memorial Rebirth 千住」において舎人公園での大規模イベントを開催したことが大きい(プログラム計9,956人)。また、4回目の開催となった千住・人情芸術祭「1DAYパフォーマンス表現街」においても、過去最高の8,604人を記録した。新規事業としては「千住藝大おぼけキャンパス」を開催した。継続事業としては「仲町の家」の運営や、区内小中学校へのエデュケーションプログラムを行う「イミグレーション・ミュージアム・東京(1MM東京)」と、令和7年度に大規模イベント開催を予定する「千住だけじゃれ音楽祭」においてプレ企画を実施した。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】 「音」をテーマに人と人、人と場所、人とアートとの縁を紡ぎ、アートを通じてまちの魅力を高め、文化振興を図ることを目的に、区民参加型のまちなかアートプロジェクトを実施する。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】 1 イベントの実施前からアーティスト・ボランティア・学生が、地域の人々との縁をつなぎながら各プログラムを実施することで新たな繋がりや魅力創出に資することができている。 2 「1MM東京」では、内なる国際化が進む足立区において、アートで文化的多様性を学ぶプログラムを実施するなど、アートを通じた社会課題へのアプローチを試みた。</p> <p>以上の点から、当事業を継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】 区内小学校に事業のチラシを配布したり、ホームページ・SNSで発信したりなど、事業の周知が来場者の増加につながった。プレスリリースも効果的に活用し、合計116件のメディア掲載があった。</p>	20,000人	1 千住人情芸術祭「1DAYパフォーマンス表現街」では、かつて千住宿として栄えた旧日光街道が会場であることから、千住宿開宿400年記念のキックオフ企画として位置付け、時期を早めて開始する(5/25)。 2 「千住だけじゃれ音楽祭」では、大規模イベント「千住の1010人」を、千住宿開宿400年記念企画として実施。地域に協力をいただきながら進めていく。 3 その他継続事業として「仲町の家」の運営や、区内小中学校へのアウトリーチを行う「1MM東京」の他、「千住藝大おぼけキャンパス」、「Memorial Rebirth 千住」を実施する。	13,000人	シティプロモーション課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課			
2	区民の活発な文化芸術活動を促進する	2-1	2	文化芸術団体への支援	後援事業数	足立区後援名義使用の承認事業数								【総括】 過去5年と同様の申請数であった。申請を受けた際は、内容が適切か審査し、後援を行った。イベント実施後は報告を速やかに行うよう促している。 【事業の目的（施策への貢献）】 地域の文化活動の発展及び活性化に寄与する事業に対し、区後援名義の使用承認を行う。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 51件の事業を後援することで、地域の文化芸術活動の後押しをすることができた。地域の文化活動の発展及び活性化に寄与しているため、必要である。 【事業の周知】 文化団体から相談や申請があった場合は適切に対応する。	80事業	1	80事業	地域文化課			
				文化芸術振興基金の活用	活用金額	文化芸術事業への投入金額。											【総括】 1 令和6年度からふるさと納税で「区におまかせ」を選んだ場合お文化芸術振興基金に積み立てることとなったため、大幅な増額となった。 2 「子どもと大人の文化芸術事業」に、9,000千円、「エンターテインメントチャレンジャー事業」に1,200千円「芸術鑑賞体験事業」に52,400千円を投入した。 3 新たに「文化遺産調査美術資料修復」へ4,000千円充当した。引き続き文化遺産調査により判明した資料の、計画的な修復を行っていく。 【事業の目的（施策への貢献）】 足立区の文化芸術の振興のため、区民の文化芸術活動を支援する事業に基金を活用している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 積極的な基金の活用により、継続的な文化芸術活動の支援を行えるため今後も必要である。 【事業の周知】 区ホームページ、区SNS、チラシにより周知している。	66,600千円	1	16,600千円	地域文化課
				あだちエンターテインメントチャレンジャー支援事業	登録団体数	エンターテインメント支援事業に登録となった1年間の団体数												【総括】 1 募集チラシやSNS等の活用により、2組の新規登録の応募があり、審査会で1組が合格した。また、登録団体の更新審査では5組が不合格となり登録から外れた。 2 令和7年4月からの登録団体数は4団体減り8組となったが、新規登録された1組は「中国雑技」とバラエティに富んでおり、公演活動に積極的であることから、えんチャレ登録団体同士の共演等、活動の活性化が期待できる。 3 昨年度に引き続き、令和6年度も「ミルディス音楽祭」、「えんチャレまつり2025」を実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 プロとして活躍を目指す様々な文化芸術分野のアーティストを支援することで、にぎわいのある街づくりへの貢献を目指している。また、無料で練習や公演を見ることができるようすることで、区民の文化芸術に触れる機会の提供にも寄与している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 積極的なPRにより登録団体の増加に繋がった。にぎわいのある街づくりを活性化していくためにも、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、ホームページ及びSNS、チラシ配布等で事業の周知を行ったほか、各団体の活動の周知にも努めた。	10団体	1	10団体

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課	
		4	新規	ストリートピアノ事業【再掲】 (1-1No.11) (1-2No.10)	参加者数 アウトリーチ回数	ストリートピアノ事業への参加者延べ数 ・ギャラクシティ ・興本地域学習センター ・アウトリーチ		ギャラクシティ 14,032人 興本 119人 アウトリーチ -	ギャラクシティ 16,034人 興本 510人 アウトリーチ 1回	ギャラクシティ 16,034人 興本 590人 アウトリーチ 2回	ギャラクシティ 18,000人 興本 617人 アウトリーチ 2回	ギャラクシティ 18,118人 興本 599人 アウトリーチ 1回	A	<p>【総括】</p> <p>1 北千住マルイ入口前およびJR北千住駅改札口にてアウトリーチを実施し、延べ104名の利用者があった。プロの演奏者もゲストで招き、多くの聴衆が訪れ、日常の中で音楽を楽しむイベントを提供した。</p> <p>2 ギャラクシティ及び興本地域学習センターでは、誰でも弾けるピアノを常設しており、ギャラクシティでは多数の参加者が訪れた。また、令和5年度から「あやセンターぐるぐる」にも設置することになり、気軽に楽しめる場所が増えた。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>ストリートピアノを通じて、気軽に音楽に触れる機会を創出することで文化芸術の裾野を広げる。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>身近で気軽に音楽に触れる貴重な機会を提供しており、今後も継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>チラシ、広報、区ホームページ、区SNSなどで周知し、アウトリーチは会場へのポスター掲示や声掛け、当日の駅構内アナウンスなど、通行者も興味を持ってよう工夫を行った。また、ニュースリリースを行ったほか、ギャラクシティのストリートピアノ常連参加者に周知し参加を促した。</p>	ギャラクシティ 18,000人 興本 617人 アウトリーチ 2回		1 千住宿開宿400年記念イベントとコラボし、JR北千住駅改札口にて、ゲストプレイヤーも招いてイベントを行う。	ギャラクシティ - 興本 655人 アウトリーチ 120人 2回	地域文化課
		5	継続	音楽3団体各種演奏会（共催事業）	観客数	音楽3団体(足立吹奏楽団、足立シティオーケストラ、足立区民合唱団)定期演奏会等の観客数 ※ 年6回行った場合の会場の上限定員：5,718人	4,100人	60人	3,031人	3,655人	4,000人	3,745人	A	<p>【総括】</p> <p>令和6年度は、全ての演奏会が開催された。指導者へ謝礼、演奏会会場等の確保、チラシの区施設等への配付を遅滞なく行い団体を支援した。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>区民が音楽活動を行う機会と音楽を観賞する機会を創出する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>区民が音楽文化にふれる貴重な機会を創出しているため、必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>区・楽団のホームページ、SNS、区広報の活用に加え、独自のチラシを作成し公共施設へ配布して周知している。</p>	4,000人	1 例年どおり演奏会を開催する。 2 令和7年度音楽3団体定期演奏会は7回開催予定。	5,000人	地域文化課	
		6	継続	共催団体の各種共催事業	共催事業数	区が共催する文化事業数（音楽3団体と足立区文化団体連合会は除く）	11事業	6事業	9事業	10事業	10事業	10事業	A	<p>【総括】</p> <p>令和6年度の共催事業は、舞踊、ダンス、武術、歌、吹奏楽など様々なジャンルを披露する「フリーステージ・アダチ」、足立区合唱連盟主催の「足立区合唱祭」や「海の日ジョイントコンサート」など予定通り10事業を開催した。東京足立少年少女合唱団が令和7年5月解散のため7年度の共催事業予定数は1事業減とした。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>あだち区民やコンサートにより区民の活動機会と観賞機会の双方を創出する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>共催事業では出演団体等による実行委員会を組織し運営を担っている。多くの区民に対して活動成果を発表する機会を創出しているため必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>区のホームページ、SNS、区広報を活用して周知している。また、区施設でチラシを配付している。</p>	9事業	1 「フリーステージ・アダチ」や「海の日ジョイントコンサート」など継続して9事業を開催予定である。 2 イベント会場の確保やチラシ配布などの広報活動を行い、団体がよりよく自主的に活動できるよう支援していく。	13事業	地域文化課	

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		7	継続	イベントコーディネーター (公社自主事業)	相談件数	文化事業実施に関する相談件数 ※ 相談窓口業務のため、目標値の設定はせず、実績値のみを集計していきます。	16件	4件	4件	4件	-	-		【総括】 地域や団体の催し物に出演する演奏家に関する相談があり、足立区出身のアーティストを紹介した。 【事業の目的（施策への貢献）】 団体や施設等の主体的な文化芸術活動の活性化を目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 文化イベントの企画への助言、出演者や実施施設の紹介など、団体や施設等の活動を支援しており、必要である。 【事業の周知】 公社ホームページで周知した。	-		-	生涯学習振興公社
		8	継続	郷土博物館講師派遣事業	実施回数	講師派遣依頼に基づく講演、体験教室等の実施回数	16回	10回	13回	14回	15回	24回	A	【総括】 1 改修に伴う引越業務繁忙期間は依頼の受け入れを行うことができなかったが、休館期間中の博物館事業PRの一環として派遣を行った結果、実施数は20回と、令和5年度の15回より5回増加した。 2 当館の企画展の波及効果として引き続き近隣自治体からも派遣依頼があるなど、区内外問わず博物館事業の発信に寄与している。 【事業の目的（施策への貢献）】 足立区の歴史や文化を地域に浸透させる取組であり、区民の郷土愛の醸成につなげる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 講師として学芸員等が現地に赴き、歴史や民俗、美術に関する講座を行う。令和6年度は20回実施し、計約900名へ講演、体験教室を実施した。学芸員が直接足立区の知識を伝える機会は貴重であり、継続する必要がある。 【事業の周知】 郷土博物館ホームページで周知している。	25回	1 令和7年度はリニューアルオープン初年度にあたる。継続して積極的な講師派遣を行い、リニューアルオープンや新しくなった常設展示の周知に繋げていく。 2 令和7年度は千住宿開宿400年にあたるため、講師派遣の場を通じて機運醸成を図っていく。	20回	地域文化課（郷土博物館）
		9	継続	講師派遣事業（学び情報サービス）	メニュー数	学び情報サービスに登録しているメニューの数（講師登録数）	245メニュー	206メニュー	203メニュー	210メニュー	245メニュー	198メニュー	A	【総括】 1 2年に1度の一斉更新を行った。 2 近年、コロナ禍で減少した講師登録者数に増加が見られていたが、令和6年度に減少が見られた。 3 円安に伴う講座での材料費高騰や他区への引越に伴う登録抹消が見られた。 【事業の目的（施策への貢献）】 地域で活躍する生涯学習関連の講師情報を集約し、窓口で紹介することにより、学びたい区民の生涯学習活動を支援する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 より体験機会を増やすため、センターでの事業だけでなくアウトリーチにより、区民へ生涯学習活動に必要な情報を提供する必要がある。 【事業の周知】 生涯学習センターホームページで、生涯学習関連の講師・指導者を集約し「学び情報提供サービス」として紹介している。	245メニュー	1 ホームページやSNS等で定期的な情報発信を行うと共に、ミニコミ紙の紙媒体や利用が想定されるターゲットへの事業紹介等で当該サービスの紹介を行っていく。	250メニュー	生涯学習支援課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		10	継続	センター登録団体制度	登録団体数	各地域学習センターに登録している文化団体の数	407団体	353団体	349団体	319団体	407団体	312団体	B	<p>【総括】</p> <p>1 会員の高齢化により、施設の更新等のタイミングで団体数の減少が続いている。</p> <p>2 ミニコミ紙への掲載やサークル支援講座等により、前年よりもサークル数の減少は抑えることができた。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>サークル団体の継続的な自主的活動を推進し、各地域学習センターに登録することで、貸出施設の優先予約やサークル支援講座等により生涯学習活動を支援する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>団体活動により生涯学習活動の継続性が望めるとともにコミュニティ形成につながる。また、日頃の活動成果の発表や学習機会の提供は地域還元にもつながっているため必要な事業である</p> <p>【事業の周知】</p> <p>各センターにおいて、ミニコミ紙やサークル支援講座等での活動紹介のほか、ふれあい祭りなどで日頃の活動成果の発表を行っている。</p>	407団体	1 2年に1度の一斉更新を行う。 2 登録団体が講座やイベント等を自ら企画運営する「サークル支援講座」を引き続き開催していく。 3 ミニコミ紙やSNSにて登録団体の活動紹介の発信、地域でのアウトリーチ型の活動など、登録団体の自主的な活動を支援していく。	410団体	生涯学習支援課
		11	継続	サークル情報登録事業	登録サークル数	生涯学習センターホームページに登録しているサークル数	366サークル	322サークル	320サークル	288サークル	400サークル	291サークル	B	<p>【総括】</p> <p>1 イベント時や施設に問い合わせがあった際の案内により、登録数の微増に繋がったと考えられる。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>区内のサークル情報を集約・提供することで、サークル活動の活性化につなげ生涯学習活動を支援する。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>サークル活動を始めたい区民に必要な情報提供を行うため、継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>生涯学習センターホームページで、区内で活動している生涯学習関連のサークル情報を集約し紹介している。</p>	400サークル	1 2年に1度の一斉更新を行う。 2 ホームページやSNS等で定期的な情報発信を行うと共に、ミニコミ紙の紙媒体等においても当該サービスの紹介を行っている。	410サークル	生涯学習支援課
		12	継続	西新井文化ホール公演事業（ギャラクシティ指定管理者事業）【再掲】（1-1No.11）	観覧者数	西新井文化ホールで行われる公演の観覧者数	17,436人	10,944人	22,324人	20,000人	20,000人	26,553人	A	<p>【総括】</p> <p>令和6年度は、コロナ禍の影響以前とほぼ同様の運用を行うことができた。 令和6年度開催イベント 1 ミュージックハーモニー 2 THE GREATEST ENTERTAINMENT SHOW3 3 ファミリーミュージカル「アルプスの少女ハイジ」 4 ギャラクシティクリスマスコンサート2024 等</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>区民の芸術、文化とのふれあいと創造的文化活動に寄与することを目的とし、足立区の音楽や文化活動の中心となるべく、様々な公演を企画している。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>複数の層に向けた、多様な公演を行い、老若男女多くの方に参加いただけている。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あだち広報、ホームページ・SNS、チラシ配布し周知した。</p>	20,000人	1 多くの方が文化・芸術に触れる機会を創出していく。 【令和7年度開催予定の公演例】 ア オープンステージスタインウェイを弾いてみよう イ ライブ絵本「3つものがり」 ウ 米国空軍太平洋音楽隊「ファイナル・アプローチ」 ※ 令和7年度目標値は令和6年度と同数とした。	20,000人	地域文化課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30	R3	R4	R5	R6	R6	R6	R6	R7	R7	R8	所管課
							現状値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値						
2	区民の活発な文化芸術活動を促進する	2-3	活動の成果を発揮できるイベントを開催する	あだち区展・美遊展・文化祭(共催事業)	足立区展応募作品数・文連イベント数	あだち区展の応募作品数 足立区文化団体連合会の発表・展示のイベント数	905作品	862作品	815作品	729作品	1,000作品	752作品	B	【総括】 あだち区展は例年通り開催。文化団体連合会主催のイベントは加盟団体の脱退により18イベントとなった。 【事業の目的(施策への貢献)】 区民が文化活動の成果を発表する機会を創出する。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 あだち区展・美遊展・文化祭は区内でも規模の大きい発表会であり、区民の鑑賞の機会でもあるため継続する必要がある。 【事業の周知】 区のホームページ、区SNS、区広報を活用して周知している。また、区施設でチラシを配付している。	1,000作品 17イベント	1 あだち区展2025は6月に開催する。 2 春と秋に開催する文化団体連合会主催の「美遊展」「文化祭」では、「舞台発表会」や「合同展示会」などの計17イベントを開催する。 3 加盟団体の脱退により、目標値を21イベントから17イベントへ変更する。	1,000作品 21イベント	地域文化課
							19イベント	11イベント	22イベント	21イベント	20イベント	18イベント						
		2	継続	サークルフェア・ふれあい祭り	来場者数	生涯学習センターで開催するサークルフェア及び地域学習センターで開催するふれあいまつりの来場者数	45,808人	949人	14,133人	39,722人	45,000人	39,413人	A	【総括】 全てのセンターにおいて昨年度と同規模で実施することができた。来場者数は昨年度と同水準の39,413人であったが目標値には達しなかった。 【事業の目的(施策への貢献)】 登録団体等の日頃の活動成果の発表と地域との交流の場を設けるなど、各学習センターと連携し登録団体等の生涯学習活動を支援する。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 登録団体等や地域の方々で組織された実行委員会形式で行っており、登録団体等や地域の活性化につながるため必要な事業である。 【事業の周知】 センターのミニコミ紙やSNS等により周知を行っている。開催としては登録団体等の実行委員会形式で実施しており、利用者懇談会等において登録団体との意見交換を行いながら事業の周知を図っている。	45,000人	1 登録団体等の日頃の活動成果の発表の場を設けながら活動を支援していく。 2 地域団体等と連携したイベントを通じ、地域交流の場を提供するとともに来場者増加を目指していく。	45,000人	生涯学習支援課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		3	継続	ADACHI 障がい者アート展(共催事業)	①企画参加者数(団体) ②来場者数(人) ③ホームページ閲覧数(ページビュー)	①アート展企画に参加した団体(個人参加は1団体としてカウント)の数 ②アート展開催期間中、足立区役所内当該ブースへの来場者数 ③アート展開催から当月末までの、足立区ホームページ「デジタルアート」の閲覧数(当年度分のみ)	①74 ②3,460 ③なし	①50 ②なし ③3,717	①82 ②2,580 ③2,248	①85 ②4,036 ③4,864	①86 ②4,000 ③4,600	①56 ②4,208 ③1,863	B	<p>【総括】</p> <p>1 令和5年度は本庁舎アトリウムで5年ぶりのセレモニー(式典)・イベント・ふれあい発表会を開催した。国・都・区議会議員を来賓に招き盛況だった。作品展、自主製品の販売コーナー(平日食品販売も実施)、体験コーナーも行いコロナ禍前に実施していた内容を全て実施した。 現地に足を運んでいただき、その場の空気感を皆さんで共有する原点回帰の一つの目標に、Webびじゅつかんを「様々な障がいの理解」として「聴覚」をテーマにしたイベントに変更した。 結果、足立区ホームページ閲覧数は伸びなかったが、令和6年度の来場者数は昨年度と比較し約5%の増となった。</p> <p>2 令和5年度の多数の来場者の意見をうけ、初の試みとなる「デザイングッズの販売」を実施した。アンケート集計から8割以上の方々から「継続・拡大してほしい。」と回答があった。 令和5年度に引き続き、現地に足を運んでいただくための周知として、SNSには関わる人々のインタビュー記事並びに動画を発信した。区ホームページの関連ページは1,863の閲覧回数に留まった。(デザイングッズの販売アクセスは含まず)</p> <p>3 区役所への来場者を対象に実施したアンケートは735件の回答があり、満足度の項目では9割が当事業について「とても良かった」「やや良かった」と回答している。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>障害者基本法が定める障害者週間(12月3日から9日)にあわせ、障がい者(児)の自立と社会参加の意欲向上とともに、一般区民への理解と啓発を目的として開催した。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>障がい者の社会参加の場の創出と意欲の向上に資するため必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>ポスター・チラシ、SNS、あたち広報、区ホームページを用いて周知した。広報物の一部にはホームページの二次元コードを掲載し、アクセス数の増加に努めた。ホームページに障がい者アート展を支える方々のインタビュー記事並びにSNSへは動画の発信を行った。また、当事業の実施にあたりプレスリリースを行った。</p>	①86 ②4,000 ③4,600	①90 ②4,000 ③4,600	障がい福祉センターあしすと	
		4	継続	大ひょうげん(ギャラクシティ指定管理者事業)	参加者数	事業に参加し、発表をした子どもの人数	497人	0人	405人	1,530人	2,000人	1,468人	B	<p>【総括】</p> <p>1 令和6年度は子どもたちが、ミュージカルを事前に5日間練習した後、西新井文化ホールでファミリーミュージカル「アルプスの少女ハイジ」を発表した。</p> <p>2 THE GREATEST ENTERTAINMENT SHOW3とコラボした大ひょうげんでは、ミュージカル体験コース・アイドル体験コースに分かれて練習を重ね、ショーに出演した。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>子どもたちがミュージカルの技術をフロから直接教わり練習を重ね、その成果を発表することで、表現力や自己肯定感を育み、こどもたちの成長につなげる。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>身に着けた技術を西新井文化ホールで発表することで、子どもたちの表現力や自己肯定感の醸成につながるため、継続して実施する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あたち広報、区ホームページに加え、ギャラクシティのホームページ、SNSやチラシ配付等の事業周知を行った。</p>	2,000人	2,000人	地域文化課	

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 x:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		5	継続	あだちエンターテイメント チャレンジャー支援事業【再掲】 (2-2No. 25)	登録団体数	エンターテイメント支援事業に登録となった1年間の団体数	6団体	9団体	12団体	12団体	13団体	8団体	B	<p>【総括】</p> <p>1 募集チラシやSNS等の活用により、2組の新規登録の応募があり、審査会で1組が合格した。また、登録団体の更新審査では5組が不合格となり登録から外れた。</p> <p>2 令和7年4月からの登録団体数は4団体減り8組となったが、新規登録された1組は「中国雑技」とバラエティに富んでおり、公演活動に積極的であることから、えんチャレ登録団体同士の共演等、活動の活性化が期待できる。</p> <p>3 昨年度に引き続き、令和6年度も「ミルディス音楽祭」、「えんチャレまつり2025」を実施した。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>プロとして活躍を目指す様々な文化芸術分野のアーティストを支援することで、にぎわいのある街づくりへの貢献を目指している。また、無料で練習や公演を見ることができるようになることで、区民の文化芸術に触れる機会の提供にも寄与している。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>積極的なPRにより登録団体の増加に繋がった。にぎわいのある街づくりを活性化していくためにも、今後も継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あだち広報、ホームページ及びSNS、チラシ配布等で事業の周知を行ったほか、各団体の活動の周知にも努めた。</p>	10団体	<p>1 天空劇場に加えて、生涯学習センターや各地域学習センター等の会場利用を紹介する。</p> <p>2 人気団体の日程を調整することやゲスト団体を起用するなど工夫しながら、えんチャレまつりを実施する。</p>	10団体	地域文化課
		6	継続	イベントコーディネート（公社自主事業）【再掲】（2-2No. 7）	相談件数	文化事業実施に関する相談件数 ※ 相談窓口業務のため、目標値の設定はせず、実績値をのみを集計していきます。	16件	4件	4件	4件	—	—		<p>【総括】</p> <p>地域や団体の催し物に出演する演奏家に関する相談があり、足立区出身のアーティストを紹介した。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>団体や施設等の主体的な文化芸術活動の活性化を目的としている。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>文化イベントの企画への助言、出演者や実施施設の紹介など、団体や施設等の活動を支援しており、必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>公社ホームページで周知した。</p>	—	令和5年度をもって事業終了。	—	生涯学習振興公社

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
3	足立区の文化資源を次世代に継承する	3-1	1	文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する	貴重な文化資源を活用した企画展の開催	来場者数 企画展の来場者数 開催回数	15,434人 4回	7,123人 2回	11,293人	0人	0人	0人	A	【総括】 1 大規模改修に伴い令和5年1月から令和7年3月まで長期休館中である。 2 電子展覧会として、令和6年3月に刊行した文化遺産調査マンガ『ビビと美アダチ』とタイアップした展覧会、およびリニューアル後の新常設展示にて展示予定の資料を紹介する展覧会を開催した。 【事業の目的（施策への貢献）】 足立区と関連地域の歴史・生活文化、美術史等に関する調査研究により、貴重な地域美術資料の散逸を防ぎ、広く区民に公表することで後世に継承していく。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 足立区の文化的なイメージの向上や区民の区に対する誇りの醸成につながる事業であるため、今後も事業を継続する必要性が高い。 【事業の周知】 電子展覧会の開催について、博物館だよりやホームページ、SNSを活用して周知した。	20,000人 4回	17,000人 3回	地域文化課（郷土博物館）	
					電子展覧会閲覧数	郷土博物館が実施する電子展覧会の閲覧数 ※令和4年度目標値の設定をしていないため実績値のみを掲載	-	-	7739回	-	10,000回	3,348回	D		10,000回	2 令和7年度は千住宿開宿から400年となるため、特別展「千住宿400年」を開催する（令和7年10月21日（火）～令和8年1月11日（日））。 3 夏休み期間中は子ども向けの展示を行う。 4 令和7年度、台湾にある故宮博物院南院および長野県にある北斎館へ浮世絵の貸し出しを行う。各貸し出し先とタイアップした展示を電子展覧会として行っていく。		
		2	2	継続	足立の歴史を知るイベント【再掲】（1-2No.16）	参加者数	年3回程度、伊興遺跡公園にて開催するイベントの参加者数（子どものみ）	416人	0人	697人	1,080人	700人	1,211人	A	【総括】 子どもたちが管玉づくりや火起こし体験などを行うイベント「古代ものづくりマスター」は、2日間続けて来場する参加者もあり、のべ参加者数は1,211人と、目標の700人を超えた。 【事業の目的（施策への貢献）】 イベントを開催するなど通じて、子どもたちが足立の歴史に関心を持つきっかけを提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 イベント内で実際に埴輪や管玉を作ることによって、子どもたちが楽しみながら歴史を学ぶことから、今後も継続していく必要がある。 【事業の周知】 例年、区内の全小学校及び区内図書館、地域学習センターへポスターとチラシを配布するとともに、あだち広報や区ホームページにて周知している。	700人	560人	地域文化課
		3	3	継続	小学校・地域学習センターへの出前事業【再掲】（1-2No.17）	実施回数 参加者数	区内小学校及び地域学習センターで実施する出前授業の回数 ※1回に6年生のクラスを全てまとめて行う（1～2クラス/1クラス約30名）。	【小学校】 4回 90人	【小学校】 0回 0人	【小学校】 0回 0人	【小学校】 3回 148人	【小学校】 5回 150人	【小学校】 0回 0人	×	【総括】 小学校からは校長会等を通じて周知したが依頼は0回だった。地域学習センターからは1件依頼があった。今後は展示館の事業について頻度を上げて周知するなど工夫していく。 【事業の目的（施策への貢献）】 区の学芸員から、より詳しい足立の歴史を学ぶことで、小学生に興味、関心をもってもらう。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 身近で気軽に歴史に触れる機会を提供しており、今後の継続が必要である。 【事業の周知】 小学校には校長会でお知らせと申し込み書を配布し、事業を効果的に実施している。地域学習センターに対してもちろし等を配布することで出前講座の応募を増やしていく。	【小学校】 3回 90人	【小学校】 5回 150人	地域文化課
		【地域学習センター】 2回 32人	【地域学習センター】 1回 20人	【地域学習センター】 1回 20人	【地域学習センター】 0回 0人	【地域学習センター】 5回 100人	【地域学習センター】 1回 20人	【地域学習センター】 3回 60人										

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	常設展示を活用した江戸時代以降の足立を紹介	入館者数	郷土博物館の年間入館者数	20,770人	7,123人	13,560人	-	-	-	×	【総括】 1 大規模改修に伴い令和5年1月から令和7年3月まで長期休館としている。 2 「郷土資料館から美術博物館へ」をテーマに、これまでの歴史・民俗分野のみであった常設展示を美術分野も加えて再構成した。 【事業の目的（施策への貢献）】 「郷土資料館から美術博物館へ」をテーマに、足立の豊かな美術文化と、それが醸成された背景を紹介していく。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 郷土の歴史や文化を伝える歴史資料等の展示を通じて、区民の郷土愛を醸成するため、今後も事業を継続する。 【事業の周知】 リニューアルオープンについてポスターやリーフレットを制作し、区内各所に掲示および配架して周知した。	30,000人	1 令和7年4月26日（土）にリニューアルオープン。開館後は協働グループによる展示解説ボランティアなどを選び、新しくなった常設展示の内容の周知・普及に努めていく。	25,000人	地域文化課（郷土博物館）
		5	継続	郷土博物館・伊興遺跡公園の社会科見学受け入れ事業【再掲】（1-2No.11）	来校数	郷土博物館及び伊興遺跡公園の社会科見学受け入れ学校数 ※郷土博物館は令和5年1月～令和7年3月の期間休館	34校	18校	20校	9校 717人	12校	6校 217人	C	【総括】 1 伊興遺跡公園では、小学校3校の社会科見学を受け入れ、施設見学や火起こし体験等を行った。また、中学校3校の職場体験を受け入れ、体験学習とともに施設見学を行った。 2 郷土博物館は休館中のため、社会科見学の受け入れも休止している。 【事業の目的（施策への貢献）】 学校教育の一環として、足立区の歴史や文化について学習する機会を提供している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 次世代を担う区内小学生にとって、足立区の歴史や文化を学芸員の説明を受けながら親しみ、より詳しく学べる貴重な機会となる事業であるため、今後も継続していく必要がある。 【事業の周知】 校長会を通じて区内小学校長や社会科部会の教職員に周知した。また、区ホームページにて区民に周知している。	12校	1 伊興遺跡公園については今後とも積極的に施設見学を受け入れていく。 2 郷土博物館は、4月26日（土）のリニューアルオープンより、社会科見学、職場体験の受け入れを再開する。	52校	地域文化課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 x:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課				
3	足立区の文化資源を次世代に継承する	3-2	地域	伝統文化を次世代に継承・活性化させる	1	継続	文化芸術を担う人材の育成	参加者数のべ開催数	伝統行事・伝統芸能体験及び講座や講習会等に参加した人数およびのべ開催数	新規	158人 139回	201人 180回	239人 234回	300人 -	313人 301回	A	<p>【総括】</p> <p>1 伝統文化親子教室は区内14箇所で開催し、昨年度比30%増の313名が参加した。</p> <p>2 郷土芸能鑑賞会は、開催場所の郷土博物館が大規模改修中であるため、開催できなかった。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>主に伝統行事や伝統芸能の体験事業（郷土芸能鑑賞会など）により、次代を担う人材育成の支援を行う。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>子供たちに伝統文化を体験させることで、興味関心を持ってもらうとともに、地域の愛着や誇りの醸成につなげるため、今後も継続していく必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>文化庁や区ホームページにて周知を行っている。</p>	300人 -	1 伝統文化親子教室は、引き続き文化庁補助事業の申請手続きをサポートし、子どもたちの体験機会を確保していく。	2 郷土芸能鑑賞会は、郷土博物館リニューアルオープンに伴い、令和7年度から再開する。来館者に区内の郷土芸能を知ってもらおうとともに、お囃子団体の後継者の演奏機会として活用していく。	300人 140回	地域文化課
					2	継続	郷土芸能を保存・伝承する団体の支援【再掲】（1-1No.9）	鑑賞者数 役員会開催数	郷土芸能鑑賞会・郷土芸能大会の鑑賞者数 役員会の開催のべ数	1,014人 6回	0人 4回	0人 0回	0人 4回	600人 4回	250人 4回	D	<p>【総括】</p> <p>1 郷土芸能大会は16団体が出演し、区内のお囃子や獅子舞の鑑賞会を実施した。しょうぶまつり、区民まつりにおいてもお囃子演奏や体験を行い、来場者へ鑑賞の機会を提供した。郷土芸能鑑賞会は会場の郷土博物館が改修中のため全て中止となった。</p> <p>2 役員会は4回開催した。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>伝統芸能の継承、保存と観賞機会の提供</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>伝統芸能の保存・継承のために有効な事業であり、観賞のニーズもあるため、今後の実施していく必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>あたち広報、区ホームページ、チラシの配付、ポスター掲示など</p>	600人 3回	1 郷土芸能大会は西新井文化ホールで10月に開催予定である。郷土芸能鑑賞会は、郷土博物館オープンを含め5回を予定している。また、しょうぶまつり、区民まつりのイベントでの演奏機会も提供していく。	2 目標値下方修正、当初の目標7回郷土芸能保存会事業計画により減。	1,200人 7回	地域文化課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30	R3	R4	R5	R6	R6	R6	R6	R7	R7	R8	所管課
							現状値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値						
4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する	4-1	足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する	1	新規	効果的情報発信	アクセス数	ホームページに掲載した文化芸術関連イベント情報の年間アクセス数	新規	41,583回	54,151回	71,433回	75,000回	73,913回	A	75,000回	60,000回	地域文化課
				2	新規	文化芸術の推進につなげる普及活動(「ちょいカル」プッシュ型情報発信)	実施回数	イベント等での普及活動の年間実施回数	新規	66回	119回	162回	170回	172回	A	170回	150回	地域文化課
				3	継続	JOBANアートライン	アクセス数	JOBANアートラインPR動画の累計アクセス数	287回	2,030回	2,253回	2,634回	2,700回	2,423回	A	2,700回	3,000回	地域文化課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	情報紙の発行（ミニコミ紙） （各センター指定管理者事業）	配布部数	生涯学習センター及び地域学習センター（13センター）のミニコミ紙月間配布部数	504,000部	514,800部	528,100部	528,100部	504,000部	528,100部	A	<p>【総括】</p> <p>1 配色や文字の強調や紙面レイアウトについて、読者の見易さ向上に努めて毎月発行した。</p> <p>2 講座参加などのニーズを確認しながら、小学校や幼稚園等、幅広く配布をした。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>各センターの特色を活かして、講座情報や図書館のおすすめ本などのお知らせ、イベントや地域周辺の情報を掲載し、区民に役立つ情報の発信を目的としている。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>講座参加等の区民の生涯学習活動のきっかけづくりに繋がっていることから、必要な事業である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>小中学校や町会自治会等へ配付するほか、各センターホームページにおいてバックナンバーも掲載している。</p>	504,000部		504,000部	生涯学習支援課
		5	新規	SNSを活用した情報発信 （各センター指定管理者事業）	SNSフォロー数	生涯学習センター及び地域学習センター（13センター）が発信しているSNSのフォロー数（登録者数）	-	6,170人	9,052人	10,774人	8,213人	14,101人	A	<p>【総括】</p> <p>LINEやInstagramを新たに導入するなど積極的な情報発信の取り組みにより、フォロー数が大きく増加した。</p> <p>【事業の目的（施策への貢献）】</p> <p>区民の興味や関心を惹くタイムリーなセンターの講座情報等を効果的に発信し、新規利用層の獲得と利用者の定着を図ることを目的としている。</p> <p>【事業の必要性（ニーズの把握）】</p> <p>講座参加等の区民の生涯学習活動につながっていることから、必要な事業である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>ミニコミ紙やホームページ等で二次元コード掲載などの工夫をしている。</p>	9,034人	1 新規利用層の獲得と利用者の定着を図るため、引き続きSNSを活用していく。	9,034人	生涯学習支援課

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【達成度欄】評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60~80%未満 C:目標の40~60%未満 D:目標の20~40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する	4-2	連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る	アートアクセスあだち音まち千住の緑文化サロン「仲町の家」(共催事業)	プログラム数	「仲町の家」で展開される、主催プログラムとパイロットプログラムの総数	14事業	12事業	14事業	23事業	20事業	28事業	A	<p>【総括】</p> <p>1 年間を通し土・日・月・祝日に開室。歴史ある日本家屋に着想を得たアーティストや学生等によって、過去最高となる合計28のパイロットプログラムが開催された。</p> <p>2 新規事業として、未就学児と保護者を対象とした「マンデー・ベイビー・コンサート」を12回開催した。</p> <p>3 主催事業の各プログラムの会場や企画相談窓口として活用された。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>「音」をテーマに人と人との縁を紡ぎ、アートを通じてまちの魅力を高め、文化振興を図ることを目的に、区民参加型のまちなかアートプロジェクトを実施。交流や出会いを図る場づくりを行う。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>1 家の活用法や可能性を探っていく「パイロットプログラム」では、特に創作・表現意欲のある若手アーティストや学生らの活躍、挑戦の場になるとともに、鑑賞目的での区外からの来訪機会創出につながっている。</p> <p>2 「マンデー・ベイビー・コンサート」では、未就学児に対する体験機会の提供だけでなく、地縁の少ない若い世代の保護者が他者との縁を紡ぐ機会や、音まちの他の事業に関わる入り口としての役割も果たした。</p> <p>以上の点から、当事業を継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>「音まち」のWebサイト・SNSや、区ホームページ・区SNSでの情報発信を継続して実施。プログラムの対象年齢に併せてチラシの配布先も検討した。取材・撮影に対しても積極的に協力したことで、メディア掲載件数は22件を記録するなど、認知度の向上につながった。</p>	20事業	20事業	シティプロモーション課	
				コンサートinミュージアム(公社自主事業)【再掲】(1-1No.10)	実施回数	参加5施設(石洞美術館、わたなべ音楽堂、昭和の家、六町ミュージアム、BlueY)でのコンサート等の催し物回数	5回	2回	5回	2回	4回	4回	A	<p>【総括】</p> <p>六町ミュージアム・フローラと昭和の家<平田邸>でコンサートを実施した。多くの人が観覧できるように、定員を増やし各施設2回計4回の公演を行った。また、これまでに作成した全5施設のコンサート動画をYouTube配信し、区民に視聴の機会を提供した。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>区内5ヶ所の民間文化施設の特徴や魅力を最大限に活かしたコンサートや催し物を区民に届ける事業であり、区民への文化発信と、地域への愛着や誇りの醸成を図ることを目的としている。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>毎回定員を超える応募がある。また、区民に区内民間文化施設の魅力やコンサート等の楽しさを紹介する事業であるため、今後も継続する必要がある。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>トキメキやホームページ、フェイスブック等による周知の他、コンサート動画の情報を加えた事業紹介パンフレットを作成・配布した。また、足立朝日等へコンサート実施の情報提供を行った。</p>	4回	5回	生涯学習振興公社	
				文化芸術交流会の開催	実施回数	文化芸術交流会の年間開催回数	新規	0回	1回	1回	2回	3回	A	<p>【総括】</p> <p>文化団体連合会は文化祭、研修会、郷土芸能保存会は郷土芸能大会の場を通して交流を行うことができた。</p> <p>【事業の目的(施策への貢献)】</p> <p>区民が主体となり、区の文化芸術の発展を目的とした活発な意見交換や情報提供を支援する。</p> <p>【事業の必要性(ニーズの把握)】</p> <p>団体同士の交流は、活動や感動の共有、郷土芸能や伝統文化の継承、新しい文化の興りにつながるコミュニティの形成など、区の文化芸術の活性化につながるため必要である。</p> <p>【事業の周知】</p> <p>「音楽3団体」や「郷土芸能保存会」それぞれの役員会や連絡会を通じて周知している。</p>	2回	3回	地域文化課	

文化芸術推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60~80%未満 C: 目標の40~60%未満 D: 目標の20~40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 現状値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	東京藝術大学連携・芸術によるまちづくり事業【再掲】 (1-1No.5)	・藝大千住キャンパスや地域学習センター、民間施設等で開催したコンサートイベントの参加者数および実施回数 ・動画配信毎の視聴回数の合計及び動画本数	・藝大千住キャンパスや地域学習センター、民間施設等での区内全域において開催したコンサートイベントの参加者数および実施回数 ・動画配信ごとの視聴回数の合計および配信した動画の本数	193人 3回	109人 2回	260人 4回	109人 2回	400人 4回	401人 4回	A	【総括】 「竹の塚地域学習センター」および「ギャラクシティ」のプラネタリウムでのアウトリーチ公演を開催した。また、藝大千住キャンパスで「文化の日音楽祭」、「ピアノリサイタル」を開催した。公演実施の際は無料託児を用意し、小さなお子様連れの方も参加しやすいようにした。 また、大人の初心者・未経験者を対象とした箏のワークショップを行い、家族等を観客として招き練習の成果を発表した。なお、藝大千住キャンパスでのコンサートおよびワークショップは、後日YouTubeにて動画配信を行った。 【事業の目的（施策への貢献）】 コンサートやワークショップを通して、区民の文化芸術への関心を高め、文化芸術を通して生活の質の向上及び区内文化芸術振興に資することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 東京藝術大学と連携することで、質の高い音楽を無料で聴ける機会を提供し、誰もが身近に音楽を聴きかけとなる本事業は、今後にも必要である。 【事業の周知】 あだち広報、区ホームページ、区SNS、区フェイスブック、デジタルサイネージ、チラシ、ポスター、アートリエゾンセンターホームページ、ブログ、SNS等で周知を行った。	400人 4回	1 令和7年度は、「西新井文化ホール」などでのアウトリーチおよび藝大千住キャンパスでのコンサートを実施していく。 2 藝大千住キャンパスでのコンサートおよびワークショップは、手軽に多くの人が見られるよう、記録動画を配信する。 3 初心者・未経験者を対象としたワークショップを実施し、楽器に触れる楽しさや喜びを感じる機会を提供する。	500人 4回	地域文化課
							-	14,659回 4本	3,176回 2本	14,659回 4本	5,200回 3本	14,233回 6本(3公演)	A		5,200回 3本		5,000回 2本	

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	1-1	文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

文化芸術との出会いは、実際に触れ感じることから始まる。文化ホールや劇場での舞台鑑賞、イベントや地域ごとの文化施設での取り組みなどを拡充することにより、誰もがいつでも文化芸術を楽しめる機会を創出する。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	30.3%	-	-	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%			37.9%	-	-	-	-	

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	25.8%	52.4%	-	-		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	32.3%	65.5%	-	-		

指標名③	文化芸術に関心を持っている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 文化芸術（観たり、聴いたり、創作すること）に関心がある区民の割合								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	65.6%	実績値	65.6%	67.0%	92.6%	89.7%	-		(95.0%)
目標値（R8）	95.0%	達成率	-	70.5%	97.5%	94.4%	-		

指標名④	過去1年間に文化芸術鑑賞をした区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 過去1年間に、文化ホールや美術館、博物館、劇場、映画館などに出かけて、鑑賞した区民の割合								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	54.5%	実績値	54.5%	30.3%	66.1%	67.2%	-		(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	43.3%	94.4%	96.0%	-		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	11	0	1	2	0	0	14
%	79%	0%	7%	14%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<p><現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等</p> <p>【達成状況】 令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施 指標③実績値（92.6%→89.7%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を下回った。 指標④実績値（66.1%→67.2%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。</p> <p>【要因分析】 ア 令和5年度のシアター1010では「音楽の絵本 ダンディズム」、「アサルトトリリィ」、「青春のアイドル ヒットステージ」など、子ども・若者・壮年をそれぞれ対象とした公演などを実施し、劇場来場者の合計は141,335人と、令和4年度の113,415人から25%増した。なお、令和6年度は11月から工事休館となり、来場者数は89,860人となった。 イ シアター1010の文楽公演に先駆け、令和5年度から国立劇場と連携して「初めての文楽講座」を実施した。令和5年度の参加者のべ数は267人、令和6年度は232人である。</p> <p>【その他実績等】 ア 令和元年度以来、4年ぶりにアトリウムコンサートを開催した。令和5年度は、のべ819人の観客が来場し、令和6年度はのべ1,274人の観客が来場した。 イ ストリートピアノのアウトリーチを実施し、令和6年度は2回開催で、のべ104人が参加した。</p> <p><今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等</p> <p>【短期の取り組み】 ア 文楽公演無料招待など区民還元事業等を実施し、伝統文化に区民等が関心を寄せるきっかけを創出する。 イ ストリートピアノは、集客のためゲストパフォーマーの出演や他のイベントとコラボなどをして実施する。</p> <p>【中長期の取り組み】 ア 区民が文化芸術を楽しむために、子どもから高齢者、障がい者や外国人など、誰もが文化芸術の魅力に「気づき」、楽しいと思える出会いの機会を充実させていく。</p> <p><助言の反映状況>助言の反映有無、その理由</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。</p> </div>
--

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	-

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 指標③、④は令和8年度目標の達成が見込めるが、指標①、②については、今のままでは達成が困難と思われるため、今後の対策をしてほしい。事業の実施は多角的に行っているので、「文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合」の達成度が37.9%から上がるよう、引き続き様々な視点から事業を実施してほしい。

イ 文楽公演や国立劇場との連携について、新たな試みを実施していることは評価できる。しかし、令和5年度の世論調査（小規模調査）では、シアター1010で文楽公演を行っていることの認知度が22.1%であったことから、周知に力を入れてほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア これまで文楽を鑑賞するきっかけがなかった方が、新たに鑑賞する機会を作ったことは評価できる。今後も、伝統芸能の裾野を広げる取り組みを行ってほしい。

イ ストリートピアノのアウトリーチは、引き続きより多くの区民等が文化芸術に触れられるよう工夫し集客を図ってほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	1-2	子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入 庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入	

1 施策の方向性

未来ある子どもたちが人生を楽しく心豊かに生きていくために、より多くの文化芸術に触れる機会が必要である。子どもの成長に応じた効果的な文化芸術のアプローチについて、新たに指針を策定し、「楽しさ」や「面白さ」といった心を動かす体験を数多く、かつ継続的に経験してもらおう事業を提供していく。
創造力・想像力、思考力、コミュニケーション能力など現代社会で生きていくために必要な力を育むとともに、文化芸術の新たな担い手の育成にもつながることから、長期的な展望を持って取り組んでいく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちであると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	35.2%	-	-	-	-	(90.0%)
目標値 (R8)	90.0%	達成率	-	39.1%	-	-	-	-	

指標名②	足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価している区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	30.8%	39.2%	64.1%	-	-	(90.0%)
目標値 (R8)	90.0%	達成率	-	34.2%	43.6%	71.2%	-	-	

指標名③	過去1年間に文化芸術鑑賞をした子どもの割合								
指標の定義	3計画アンケートによる調査を実施 過去1年間に、学校行事以外で文化ホールや美術館、映画館などに出かけて、鑑賞した子どもの割合								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	89.0%	実績値	89.0%	57.6%	-	-	-	-	(100.0%)
目標値 (R8)	100.0%	達成率	-	57.6%	-	-	-	-	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	8	2	1	1	0	1	13
%	62%	15%	8%	8%	0%	8%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施

指標②実績値（39.2%→64.1%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】

ア 令和4年度から開始した芸術鑑賞体験事業では、全区立小学校5年生を対象に劇団四季の「美女と野獣」の観劇を実施している。児童向けアンケートでは、劇の内容に関心を寄せるもののほか、「舞台上に立ちたいと思った」「ミュージカルに関連する仕事をしたい」など舞台に対して強い興味を示すものもあった。
また、参加した子どもたちの95%が観劇後に家族等と感想を話しており、事業の継続実施が、区の子どもに対する文化芸術事業の評価へつながったと考える。

イ 令和6年度ギャラクシティの「Japan Festa in ADACHI」では、千住宿開宿400年と関連して「江戸時代」をテーマに設定し、施設全体で一体感のあるイベントとなった。しかし、開催日数が2日間であったため、参加者数は7,067人となり、令和5年度（3日間開催）の10,215人から30.8%減となった。

【その他実績等】

ア 令和5年度は朝日信用金庫創立100周年記念「地元応援団」寄附を活用し、子ども向け公演「はらぺこあむしショー」を実施した。公演には区民等を無料招待し、1,400人の定員（700席×2回）へ延べ2,913人の応募があった。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 小学5年生の芸術鑑賞体験事業は、劇団四季に限らずよりよい演目を精査するなど、引き続き子どもたちが良質な芸術鑑賞を体験できるよう検討する。

【中長期の取り組み】

ア 子どもたちが、楽しく力強く生きていくために、成長段階に応じた文化芸術体験事業を提供する。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	5	3	-

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 子どもの文化的体験は、文科省の調査でも良い影響があると言われている。芸術鑑賞体験事業でのミュージカル鑑賞機会が子どもたちに、舞台演出を提供する側への興味を抱かせるなどの心を動かす体験となったことは評価できる。

イ 「はらぺこあおむしショー」では、令和5年10月の寄附受け入れから令和6年3月のイベントまで、事業の実施が迅速であり評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 芸術鑑賞体験事業でミュージカル鑑賞をした子の95%が家族等へ感想を話しているとのことで、家族等が子どもと一緒に関心を持つきっかけにもつながると考える。今後も、単に子どもたちが楽しいだけでなく、子どもの心を動かし、家族等の関心も一緒に引き出せるような質の高い演目を選定していただきたい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	2-1	活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入 庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入	

1 施策の方向性

文化芸術に関する様々な体験や創作活動などを、継続的に行えるように、機会の提供や活動の支援を行っていく。
また、各学習センターにおいて、複合施設という特色を活かし、読書や運動・スポーツ分野の事業と連携することで相互の活動を促進していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 これまで文化芸術に関する創作や表現などを体験するイベントや講座に参加したことがある区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	15.7%	実績値	15.7%	22.9%	34.9%	50.8%	-	(50.0%)
目標値 (R8)	50.0%	達成率	-	45.8%	69.8%	101.6%	-	

指標名②	足立区は参加・体験型の文化芸術事業が多いと感じる区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は参加・体験型の事業が多いと思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	22.2%	39.7%	-	-	(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	31.7%	56.7%	-	-	

指標名③	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】（施策1-1）							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	25.8%	52.4%	-	-	(80.0%)
目標値 (R8)	80.0%	達成率	-	32.3%	65.5%	-	-	

指標名④	分野間連携事業の参加により、新たに文化芸術活動を始めた区民の割合							
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが文化芸術活動をしています。」以上を選んだ区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)		実績値	新規	57.5%	43.8%	53.4%	57.0%	(63.0%)
目標値 (R8)	63.0%	達成率	-	91.3%	69.5%	84.8%	90.5%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	x	合計
事業数	3	0	0	0	0	0	3
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
指標①実績値（34.9%→50.8%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。なお、令和8年度の目標値（50.0%）も上回った。
指標④実績値（43.8%→53.4%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】

ア 学習センターは、趣味教養的な講座に加え、大学との連携により高度で専門的な講座等の多くの事業が実施できた。また、Zoom等を活用したオンライン講座やオンデマンド配信など、ICTを活用した事業も引き続き実施し、多くの区民が参加・体験できる機会を創出し、令和6年度参加者延べ数は107,123人と令和5年度の75,937人から41.1%増となった。
イ 読書や運動に関心を持つ方を文化分野へつなぐ「ちょいカル」は、「ほつかレイトサマー」「伊興ファミリー縁日」などイベントも通じて、これまで接触機会がなかった方へ文化芸術活動の体験機会を創出した。

【その他実績等】

ア 千住ほんちょう商店街等で実施した「1DAYパフォーマンス表現街」では、令和5年度は合計51組、令和6年度は70組のアーティストがパフォーマンスを行い、人と人、人と場所、人とアートが出会う場を創出した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 「千住だじゃれ音楽祭」では、令和2年に構想した「千住の1010人 from2020年」を千住宿開宿400年にあたる令和7年に実施することを視野に入れ、活動を行っていく。
イ 「ちょいカル」は「ぶちカル」と名称を変更し、継続参加者がこれまで同様に参加できるよう働きかけつつ、施設利用者に対し異なる分野への興味・関心を広げる取り組みを継続していく。

【中長期の取り組み】

ア 区民が文化芸術に関する様々な体験や創作活動などを継続的に行えるよう、機会の提供や活動の支援する。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	-

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 学習センターでのオンライン講座やオンデマンド配信などの取り組みが区民の文化芸術活動へつながったと考える。「文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合」が令和5年度は50.8%と、令和4年度の34.9%から15.9ポイント増加したことは評価できる。
- イ 3分野連携事業により、読書・運動に関心を持つ人が文化分野の活動へ触れる機会を創出したことは評価できる。体験機会の創出から活動継続へつなげる支援が大切である。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 千住宿開宿400年の事業は、多くの方が身近に区の文化や歴史を感じられる機会である。「千住だじゃれ音楽祭」だけでなく、千住地域の枠を越えて地域と連携し、イベントの拡充を期待する。また、千住宿開宿400年をきっかけとして、次につながる事業展開を期待する。

(3) 「評価の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	2-2	個人や団体の活動の継続を支援する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

個人や団体が定期的に、また継続して活動できるよう、区のサポート機能を強化していく。例えば、区内文化団体との共催・後援により文化活動の活性化を図ることや文化芸術事業への文化芸術振興基金の効果的な活用を進めていく。基金を活用することによって、文化事業の継続実施を図るとともに、虹色寄附金への寄附で文化を支える人と、活動する人をつなぐ役割も持ちます。また、文化芸術の次代の担い手となる若者や団体が、将来活躍するための最初の一步となるよう、経験を積む機会を提供していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	21.4%	41.3%	-	-		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	26.8%	51.6%	-	-		

指標名②	足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	16.3%	31.2%	-	-		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	20.4%	39.0%	-	-		

指標名③	文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	12.4%	実績値	12.4%	12.1%	16.9%	39.5%	-		(30.0%)
目標値（R8）	30.0%	達成率	-	40.3%	56.3%	131.7%	-		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	4	0	0	0	0	11
%	64%	36%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
指標③実績値（16.9%→39.5%）は3令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。なお、令和8年度の目標値（30.0%）も上回った。

【要因分析】
ア 令和5年度の音楽3団体の定期演奏会は観客数が3,655人と令和4年度の3,031人から21%増となった。また、令和6年度観客数は3,745人となり、さらに前年度比6%増となった。
イ 音楽3団体や足立区文化団体連合会以外に区が共催した文化事業は、令和4年度は9事業、令和5年度、6年度はともに10事業であった。区民が活動成果を発表する機会が継続された。

【その他実績等】
ア 将来メジャーでの活躍を目指すアーティストを支援する「エンターテインメントチャレンジャー支援事業（以下えんチャレ）」は区施設のほか、駅や民間施設に申込チラシの設置とSNSでのPRを継続して行い、令和6年度時点では8団体の登録者がある。新規登録者は「中国雑技」の団体であるなど、登録者全体の活動内容もバラエティに富んでいる。
イ 文化芸術団体への事業の後援は、令和5年度は49事業、令和6年度は51事業を行い、地域の継続した文化芸術活動を後押しした。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
ア えんチャレ登録団体を支援するため、天空劇場に加えて、生涯学習センターや各地域学習センターの会場利用を紹介する。
イ 郷土博物館の講師派遣事業は、以前の企画展の波及効果として、引き続き近隣自治体からも派遣依頼があるため、区内外問わず学びのニーズに応えていく。

【中長期の取り組み】
ア 個人や団体が定期的に、また継続して活動できるよう、区のサポートを強化していく。文化芸術の次世代の担い手となる若者や団体が、将来活躍するための経験を積む機会を提供していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	-

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア コロナの5類移行により、多くの区民が文化活動を再開し、その支援ができるようになったと考える。引き続き、区民が活動を行いやすいと感じるよう、文化芸術活動の支援を継続していただきたい。
- イ えんチャレ事業ではプロを目指すアーティストを支援することで、にぎわいのある街づくりへの貢献につながるとともに、区民が練習や公演を無料で観ることができ、文化芸術に触れる機会の提供に寄与していると考え。今後もえんチャレ登録団体同士の共演等、活動の活性化を期待する。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 郷土博物館の講師派遣事業では、文化財などに関心を持つ区民が自主的に専門的な知識を得られる機会を創出している。多くの人に関心を持ってもらえるよう、引き続き活動継続の支援を行ってほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	2-3	活動の成果を発揮できるイベントを開催する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

個人または仲間と共に作り上げてきた作品を発表する場を設けることは、活動を継続する上での糧となる。目標を持つことで充実した活動を行う動機付けとなるように、区民との協創を図りつつ、区民のニーズに合った発表の場を作っていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は活動の成果を発揮できる機会が十分にあると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動の成果を発揮できる機会が十分にあると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	20.2%	39.2%	52.3%	-		(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	28.9%	56.0%	74.7%	-		

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	25.8%	52.4%	-	-		(80.0%)
目標値 (R8)	80.0%	達成率	-	32.3%	65.5%	-	-		

指標名③									
指標の定義									
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)		実績値							
目標値 (R8)		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	4	0	0	0	0	5
%	20%	80%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
指標①実績値（39.2%→52.3%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。
指標②は再掲（施策1-1） 令和5年度、令和6年度は未実施

【要因分析】
ア 「サークルフェア・ふれあい祭り」は、全てのセンターで実施し、登録団体等の日頃の活動成果の発表および地域との交流の場となった。令和5年度来場者は39,722人と令和4年度の14,133人から181%増となったが、令和6年度は39,413人と0.7%減であった。
イ あだち区展・美遊展・文化祭などの共催事業については、令和5年度は21イベントであったが、令和6年度は18イベントとなった。区民の文化活動の成果発表が継続でき、機会の創出につながったと分析する。

【その他実績等】
ア 令和6年度、ADACHI障がい者アート展では展示物だけでなく5年ぶりの式典や、合唱、合奏、ダンスなどの「ふれあい発表会」を開催した。また、令和5年度から新たに発信した作品制作者へのインタビュー記事および動画も引き続き作成した。
イ 「大ひょうげん」では、子どもたちが5日間、ミュージカル「アルプスの少女ハイジ」を練習し西新井文化ホールで発表した。また、マジックなどの公演「THE GREATEST ENTERTAINMENT SHOW3」とコラボし、チアダンス体験・アイドル体験に分かれて練習を重ねショーに参加した。なお、令和6年度に参加した子どもの数は1,468人と令和5年度の1,530人から4%減となった。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
ア あだち区展・美遊展・文化祭などのイベントを通じて活動成果の発表の場を設け、区民の自発的な文化事業の創出につなげる。
イ 「大ひょうげん」では、引き続き子どもに人気な演目などを取り入れながら事業を実施する。

【中長期の取り組み】
ア 区民が充実した活動を行う動機づけとなるような文化芸術活動の目標を持てるよう、区民との協創を図りつつ、ニーズに合った発表の場を作っていく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	-

4 区内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア あだち区展およびADACHI障がい者アート展では、作品制作者へのインタビュー記事などを区ホームページに掲載したとのことで令和5年度の閲覧数は大きく増加していた（令和5年度閲覧数4,864回。前年度比116%増）が、令和6年度閲覧数は1,863回と前年度から61.7%減であった。インタビュー記事の掲載は、作品をウェブ上で観覧するきっかけになるとともに、制作者の活動の動機付けにもつながると考え評価できるため、今後の閲覧数増につながるよう期待する。

イ 「大ひょうげん」は、子どもたちがプロの技に触れ、表現する喜びを体験し、芸術活動の楽しさと伝統芸能を学べる貴重な事業であり、多くの子どもたちが参加したことは評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア あだち区展・美遊展・文化祭など、今後とも区民の自発的な活動が継続できるよう、広報や後援などの支援とともに、成果を発揮できる機会を拡充してほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
-	-	-	-

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	3-1	文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

有形・無形を問わず、文化財・文化遺産を保護し、次の世代へ残していくための取り組みを行う。区に残る貴重な文化資源が消失してしまわぬように、区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努める。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	40.8%	実績値	40.8%	37.7%	44.5%	40.5%	-	(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	53.9%	63.6%	57.9%	-	

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	31.6%	55.6%	60.0%	-	(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	45.1%	79.4%	85.7%	-	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)		実績値						
目標値 (R8)		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	1	2	0	2	7
%	29%	0%	14%	29%	0%	29%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（44.5%→40.5%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を下回った。

指標②実績値（55.6%→60.0%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】

ア 休館中の博物館事業PRとして出張展示等を行っており、区民が文化財を鑑賞する機会の創出を継続している。令和5年度に実施した出張展示「横山家住宅」では会場が足立区登録文化財ということもあり、展示品および同住宅に対する関心の高さがうかがえ、2日間でのべ918人の来場者があった。

イ 登録有形文化財の「舎人氷川神社本殿」では、12年ぶりの御開帳が催されたことに伴い、区学芸員が解説者として協力し、2日間で約2,100人の来場者があった。

ウ ア、イを受けて、過去の足立区の高い文化水準や、区の美術品の高い文化的な価値が事業を通じて区民へ伝わり、誇りへとつながったと考える。

【その他実績等】

ア 令和6年3月に刊行した文化遺産調査マンガ「ビビビ美アダチ」とタイアップし、電子展覧会を開催した。電子展覧会では、郷土博物館リニューアルに先駆け、新常設展示の資料を紹介するなど、今後の機運醸成を図った。

イ 伊興遺跡公園展示館での古代のものづくりイベントでは、子どもたちが勾玉づくりや火起こし体験をしながら古代を学ぶ機会を創出し、参加者はのべ1,211人と、令和5年の1,080人から28%増であった。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 郷土博物館では、リニューアルオープニングイベントを契機に、千住宿開宿400年を盛り上げる展示などを検討し、千住宿開宿400年に向けた機運の醸成を図る。

イ 区文化財の保護と利活用の指針となる行動計画を令和7年度中に策定していくことで、貴重な文化財の滅失・散逸等を防止していく。

【中長期の取り組み】

ア 区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努める。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
5	5	4	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 約2,100人の来場者があった「舎人氷川神社本殿御開帳」への解説協力など、タイミングを逃さず事業展開を行ったことによって、区民へ広く周知し、関心を得られたと考える。千住宿開宿400周年に向けても、郷土博物館の働きかけにより大いに盛り上げてほしい。
- イ 「足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合」は減少しているの、引き続き、郷土博物館休館中の出張展示などを継続して、区民が触れる機会を創出していただきたい。
- ウ 郷土博物館の「電子展覧会」は、来館できない方もバーチャル体験により臨場感を味わいながら文化財を鑑賞できるものである。継続して興味を引き出すような、計画的な内容の更新に期待する。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 郷土博物館による千住宿開宿400年を盛り上げる企画では、これまで郷土博物館へ関心がなかった方も興味を引かれるような、目新しい展開に期待する。
- イ 文化財の保護と利活用の指針となる行動計画では、地域の歴史や文化の礎となる貴重な文化財を未来に継承するための制度の整備を期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	3-2	地域の伝統芸能を継承・活性化させる
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

地域で受け継がれてきた伝統文化を知ることは、地域への愛着や誇りの醸成につながる。文化芸術団体の活動や地域のお祭り・お囃子など、足立区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合【再掲】（施策3-1）							
指標の定義	3計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	37.7%	44.5%	40.5%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	53.9%	63.6%	57.9%	-	

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合【再掲】（施策3-1）							
指標の定義	3計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	31.6%	55.6%	60.0%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	45.1%	79.4%	85.7%	-	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	0		1	0	0	2
%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（44.5%→40.5%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を下回った。

指標②実績値（55.6%→60.0%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】

ア 「伝統文化親子教室」は区内14箇所で開催し、参加者は301人と令和5年度の234人から28.6%増となった。

イ 「郷土芸能大会」では、16団体が出演し、区内のお囃子や獅子舞の発表と鑑賞の機会を創出した。そのほか、しょうぶまつり、区民祭りにおいてもお囃子演奏や体験を行い、来場者へ鑑賞の機会を提供した。

【その他実績等】

ア 「Japan Festa in ADACHI」では、足立区にまつわるオリジナル脚本の浅野温子氏による読み語りなど、子どもたちが地域の愛着や誇りの醸成につながるような機会を提供した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア お囃子演奏などの機会を千本桜まつりや、しょうぶまつり、区民まつり等のイベントや、リニューアル後の郷土博物館を会場として提供する。

イ 文化庁事業「伝統文化親子教室」の申請サポートを引き続き行い、子どもたちの体験機会を確保することで、地域への愛着や誇りの醸成につなげる。

【中長期の取り組み】

ア 文化芸術団体の活動や地域のお祭り・お囃子など、区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	-

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 「足立区の文化財・文化遺産・伝統芸能を誇りに思う区民の割合」は増加しているものの、「文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合」は減少している。郷土博物館のリニューアルオープン以降は「郷土芸能鑑賞会」を再開させるなど、引き続き文化財や伝統芸能の鑑賞と体験ができる機会を提供してほしい。
- イ 「Japan Festa in ADACHI」は、子どもたちが歌舞伎や能などの伝統文化を体験できる機会であり、足立区にまつわるオリジナル脚本の読み語りなど、地域への愛着や興味へつなげる事業と考えられ評価できる。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア 区内の大きなイベントでお囃子などの演奏機会を提供することは、区民が伝統芸能などに気軽に触れられる貴重な機会の創出であり、次世代の継承につなげるためにも実施を期待する。
- (3) 「助言の反映状況」への評価
- 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- (2) 「今後の方向性」への評価
- (3) 「助言の反映状況」への評価
- 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-1	足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する
担当部・課		地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課
担当部	1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

文化芸術を身近に感じるためには、文化芸術に関する情報の充実も重要な要素となる。したがって、区内の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やICTの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。また、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、3分野に関する情報を一体的に分かりやすくまとめ、情報誌やSNSを使った情報発信、スタッフとのコミュニケーションなど、より効果的な手法を選択して区民に届けていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	文化芸術に関する情報発信に満足している区民の割合								
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「文化芸術に関する区の情報発信に満足しているか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：満足でない～5：満足である）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	18.8%	28.6%	46.7%	-		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	23.5%	35.8%	58.4%	-		

指標名②	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合（再掲）（施策1-1）								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	30.3%	-	-	-		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	37.9%	-	-	-		

指標名③	情報の集約及び効果的な情報発信								
指標の定義	ホームページに掲載したイベント数の年間アクセス数 「区ホームページ内の文化芸術に関連するイベントページが一年間で閲覧された数」								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	41,583回	54,151回	71,433回	73,913回		(60,000回)
目標値（R8）	60,000回	達成率	-	69.3%	90.3%	119.1%	123.2%		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<p><現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等</p> <p>【達成状況】 令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施 指標①実績値（28.6%→46.7%）は令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。 指標③は、（545,151回→71,433回）は、令和4年度を上回った。なお、令和8年度の目標値（60,000回）も上回った。</p> <p>【要因分析】 ア 区ホームページの閲覧数は、全体的なイベント数が増加したことに加え、郷土博物館（9,809回）ではリニューアルオープンの情報や、休館中出張展示、「ビビビ美アダチ」刊行など、様々なページへのアクセスがあった。また、ADACHI障がい者アート（7,474回）は令和5年度の受賞者インタビュー記事や動画も引き続き掲載しており、令和6年度受賞者と合わせての閲覧があった。金工展では新たにワークショップを実施し、申込希望者等の閲覧数（4,691回）があり、アクセス数増につながった。</p> <p>【その他実績等】 ア マンガを情報発信ツールの一つとして活用し、郷土博物館から「ビビビ美アダチ」を書籍として発刊した。郷土博物館を知らない方でも郷土博物館に興味を持ってもらえるよう、SNSや区長ブログの掲載などにより効果的な情報発信を図った。 イ 学習センターのミニコミ紙の発行に加え、SNSを活用して各センターの情報をタイムリーに発信している。LINEやInstagramを新たに導入するなどの取り組みにより、令和6年度はフォロワー数は14,101人と令和5年度の10,774から30.9%増となった。</p>
<p><今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等</p> <p>【短期の取り組み】 ア 千住宿開宿400年を契機としたグッズなどの展開の際に、郷土博物館をPRし、郷土博物館への無関心層に関心を持ってもらうよう図る。</p> <p>【中長期の取り組み】 ア 区内の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やICTの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。</p>
<p><助言の反映状況>助言の反映有無、その理由</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。</p> </div>

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 休館中の郷土博物館関連ホームページに多くのアクセスがあったことから、区民の潜在的な文化遺産等への関心がうかがえる。今後も区の所蔵するの文化遺産等への周知につなげてほしい。
- イ 各地域学習センターでのSNS発信に新たな発信ツールを追加したことは評価できる。今後の継続的な情報の更新などにも留意されたい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 千住宿開宿400年の事業では、ロゴを使うことによって、より統一した表現での周知が可能である。関連する様々な事業が当事業に該当することが区民にわかるよう周知することが大切である。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-2	連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

国の文化芸術推進基本計画では、「民間団体との連携を強化するなど、様々な主体と協調して、地方公共団体における文化芸術振興による創造性豊かな地域づくりを推進することも重要である。」とされている。
 足立区内においても、様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、私設の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍している。それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図る。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると感じている区民の割合								
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：充実していない～5：充実している）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	15.2%	23.8%	-	-		(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	21.7%	34.0%	-	-		

指標名②	足立区は文化芸術の推進に力を入れていると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術の推進に力を入れていると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	21.2%	39.7%	-	-		(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	30.3%	56.7%	-	-		

指標名③	足立区の文化芸術の推進施策を評価できると感じている区民の割合								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術の推進施策を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	19.1%	37.6%	53.4%	-		(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	27.3%	53.7%	76.3%	-		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
 令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
 指標③実績値（37.6%→53.4%）については3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】
 ア 国立劇場との協定によるシアター1010での文楽公演や文楽講座のほか、郷土博物館による古民家での出張展示など話題性の高い事業の実施と、令和5年度のIOKYO MXによる伊興遺跡公園での韓式土器の区長紹介や、区の文化遺産が令和4年度の美術誌「国華」に掲載されるなどの宣伝効果が、施策を評価する区民の割合に影響を及ぼしたと考えられる。

【その他実績等】
 ア 文化サロン「仲町の家」では、年間を通し土・日・月・祝日に開室。歴史ある日本家屋に着想を得たアーティストや学生等によって開催されたパイロットプログラムは過去最高となる合計28事業と、令和5年度の23事業から21.7%増となった。また、主催事業の各プログラムの会場や企画相談窓口として活用されたほか、新規事業として未就学児と保護者を対象とした「マンデー・ベイビー・コンサート」を12回開催した。
 イ 生涯学習振興公社が発行するパンフレットは、令和5年度にはデザインを刷新し、5つの民間文化施設を会場とした「動画で見るコンサートinミュージアム」のQRコードを加えるなど、民間文化施設を支援した。
 ウ 東京藝術大学と連携し、ギャラクシティの「まるちたいけんドーム」（プラネタリウム）でアウトリーチコンサートを実施した。「音楽」と「星空」のコラボにより定員170名の募集枠に494名の応募があった。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
 ア 平成23年から令和5年2月まで86回に渡り実施した「アートリンクカフェ」では、多くのアーティストたちとの交流が生まれ様々な発想が生まれた。そこでこの交流から、足立ゆかりのアーティスト達による「アートリンクカフェフェスティバル」をギャラクシティにて開催し、ワークショップやアーティストの共演などを実施する。

【中長期の取り組み】
 ア 区内の様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、民間文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体がゆるやかに連携し、区の文化芸術が活性化するよう図る。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	2	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 令和5年度は3分野アンケートは行ってないが、「足立区の連携事業および交流の機会が充実していると感じている区民の割合」の過去の結果は目標値と乖離があるように感じる。区民のニーズや事業の方向性などを精査しながら、指標や目標値の検討が必要ではないか。

イ 東京藝術大学と連携したアウトリーチコンサートには定員を大きく超える応募があり、質の高い音楽を身近で触れられる機会に魅力があると感じる。今後も事業を継続するなかで、さらに大きな会場での実施など多くの区民が楽しめる展開を期待する。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 伝統芸能保存会や文化団体連合会、音楽団体、民間文化施設など、既にあるプラットフォームを活性化し、創造性豊かな地域づくりに向けて取り組んでほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

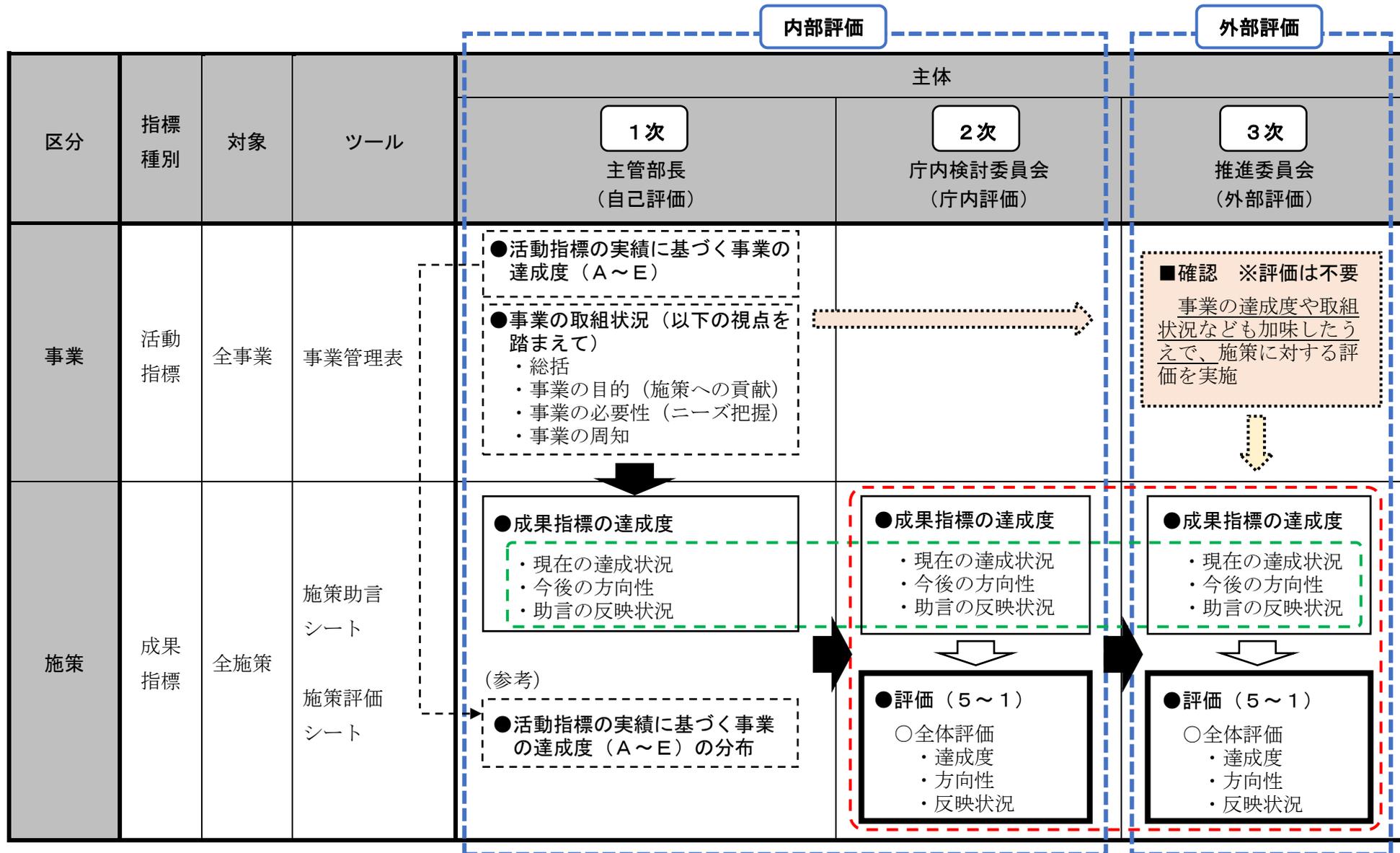
(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

足立区文化・読書・スポーツ分野計画 評価体系



足立区文化・読書・スポーツ分野計画（2次・3次評価） 評価基準

資料5-2

視点別評価	①現在の達成状況	②今後の方向性	③反映結果※
	目標に対して成果が十分に出ているか	各取組みが施策の方向性に沿ったものか 施策の実現に向けた手法は適切か	前年度の推進委員会の評価（助言）が反映されているか
5	優れた取組みが多く、施策の目標達成に向け、十分な成果が出ている。	各取組みが施策の方向性に合致しており、手法も適切で積極的に推進すべきである。	評価（助言）以上に反映した。 （反映率：100%以上）
4	優れた取組みがいくつかあり、施策の目標達成に向け、成果が出ている。	各取組みが施策の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。	評価（助言）を積極的に反映した。 （反映率：70%程度）
3	いくつかの取組みに成果は出ているものの、施策の目標達成に向けさらなる工夫が必要である。	各取組みが施策の方向性に概ね合致しており、手法も概ね妥当である。	評価（助言）をある程度反映した。 （反映率：50%程度）
2	いくつかの取組みにおいて課題があり、施策の目標達成に向けての成果があまり出していない。	各取組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法にやや課題がある。	評価（助言）の反映が消極的である。 （反映率：20%程度）
1	多くの取組みにおいて課題があり、施策の目標達成に向けての成果が出していない。改善が必要である。	各取組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法を抜本的に見直す必要がある。	評価（提言）が全く反映されていない。 （反映率：0%程度）

【全体評価：視点別評価点の合計】

重点項目施策※	15～13	12～10	9～7	6～5	4～3
		5	4	3	2
その他の施策	10～9	8～7	6～5	4～3	2
	5	4	3	2	1

※ 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、全ての施策で、③前年度の助言（評価）反映結果がありません。このため、令和7年度の全体評価については、全ての施策で、①②の視点の合計点（10点満点）に基づき、5段階で評価します。

文化芸術推進計画 評価実施状況（令和3年度）

令和3年度の助言（令和3年度報告書から）	令和3年度の助言の反映結果（令和4年度評価シートから）
<p>1 施策4-1</p> <p>(1) 「ちょいスポ」「ちょいカル」「ちょい読み」の試みは参加への敷居を下げ、だれでも参加しやすいフレーズと仕組みで大きな成果をあげた。継続を期待したい。</p> <p>(2) コロナ禍でのデジタル情報発信とミニコミ紙の発行の努力は評価できるが、閲覧数や発行部数のような数字だけでなく、それらの実質的な効果を精査する必要があるのではないか。</p> <p>(3) オンラインなどのデジタル化の中で、ミニコミ紙独自の役割（地域密着型情報発信、デジタルが苦手な層への情報発信など）が明らかになった。オンラインとミニコミ紙の効果のバランス（コストや年齢層ごとの関心度）をアンケートなどで検証できないか。</p> <p>(4) それぞれの事業や生涯学習センターのホームページには、効果的な情報発信という点から「閲覧のしやすさ」「簡便な参加申し込み」「さらなる内容の充実とデザイン性の向上」を期待したい。</p> <p>(5) ミニコミ紙には、足立区文化芸術推進計画の方向性をアピールするページや、理念が反映された情報の提示方法にすることで、地域の活動と足立区の文化政策の関連性を実現させて欲しい。</p> <p>2 文化芸術を通じたつながりの形成のために【概要】</p> <p>人と人、人と場、人と情報がつながる環境を作るために、「文化芸術の輪を広げるプラットフォームの形成」が重点項目として設定された。部会で議論を重ねる中で、コロナ禍の影響によってプラットフォームの役割にも変化がおこっていることから、以下の3点が課題としてあげられた。</p> <p>(1) コロナ禍の活動について、施設管理者、アーティスト、区民からの文化芸術に関する情報を収集し分析すること。</p> <p>(2) プラットフォームの最も重要な「つながる」という目的を「単なるイメージではなく、ゴールとして何を目標しているのか」を共有するため、足立区が持つ文化芸術事業（活動）の強み弱みを把握すること。</p> <p>(3) プラットフォームは、「音まち千住の縁」、などの新しいスタイルの文化芸術の成果を区外に積極的に情報発信して足立区のイメージアップにつなげることも重要である。</p>	<p>施策4-1</p> <p>(1) 「3分野連携事業の継続実施」への助言に対しては、地域学習センターを6施設から15施設に拡大した。情報発信については、LINEでのプッシュ通知回数を増やし、各センター職員から区民への声掛けを実施した。</p> <p>(2) 「効果的な情報発信」への助言に対しては、ミニコミ紙を見やすくするための取り組みに着手している。</p> <p>また、ギャラクシティ、シアター1010などの文化イベント情報を区ホームページのイベント情報欄に掲載を始めるなど、より効果的な情報発信に努めた。</p> <p>施策4-2</p> <p>(1) 「交流会に向けた情報収集、分析」への助言に対しては、区の主な文化芸術事業の実施状況、音楽や演劇等の分野、対象年齢層などのデータを整理し、一覧表やグラフで視覚的に確認できるようにした。</p>

文化芸術推進計画 評価実施状況（令和4年度）

令和4年度の評価（令和4年度報告書から）	令和4年度の評価の反映結果（令和5年度評価シートから）
<p>1 子どもたちへ、文化芸術の「楽しさ」「面白さ」体験の機会を創出する コロナ禍で大型施設の休館、利用制限があったが、デジタルを活用した取り組みによる文化芸術に触れる機会を創出したことを評価したい。日常生活の中で、親子や友だちとの「こころに残る芸術文化の体験」、「芸術性の高い一生の財産となる感動体験」など、これまでのリアルイベントの継続は重要である。 (1) 評価の高かった「芸術性の高い公演を子どもたちに提供する事業」の継続を期待する。 (2) どのような芸術を子ども達に届けていきたいのか、単に「幅広いものを届ける」ことだけでなく、区がリーダーシップをとって具体的に進めていくことが求められる。</p> <p>2 生きがいの一つとなるような定期的・継続的な活動を支援できる事業 文化芸術に関心を持っている区民は多いが、足立区の文化芸術事業への評価は低い。「あだちエンターテインメントチャレンジャー支援事業」のような、ニーズの把握から企画された事業や区民の自発的な文化事業の創出への支援が求められる。 (1) 「日常生活の中で触れる文化芸術の事業」を継続することも必要である。 (2) 活動の成果をコンテンツとして区外に積極的にアピールすることや、新しい文化芸術への支援は、足立区独自のスタイルに発展する可能性もある。 (3) 足立区独自の文化芸術の創出と継続のために、文化芸術の産業化発展※1に期待する。 ※1 区内の文化芸術市場が活性化し発展すること。</p> <p>3 文化財・文化遺産・伝統文化の保存、継承と活用・活性化 生活スタイルが変わり、さらにコロナ禍で地域の繋がりが希薄化していく中、地域の伝統芸能や行事の保存・継承は非常に重要かつ難しくなっていく。「ビビビ美アダチ」「おうちミュージアム」などの取り組みが委員から高く評価された。これらのサイトから、実際の博物館や美術館への興味に自然につながり、入場者増加に貢献できたと思われる。 (1) 単に過去の文化を保存するだけでなく、住民が主体的に関わる斬新な取り組みや「新たな郷土芸能の創作・育成」などの活動が期待される。 (2) インタラクティブなデジタル技術の活用、リアルとオンラインの融合による新たな可能性の追求を期待する。 (3) 若い人達が、デジタルの情報から実物の足立区の伝統的な文化に接することで、それらを元に新たな文化、芸術、芸能の創作に発展することを期待する。</p> <p>4 幅広い世代への情報発信と活動支援 3分野計画アンケートによる区民の文化芸術事業への評価は低く、目標値との隔たりが大きい。原因を調査し、文化芸術への興味関心を高める取り組みの検討が必要である。 (1) 足立区は文化芸術のための多くの施設を持っているが、区民の活動が土、日、祝日に</p>	<p>施策1-1 (1) 「日常生活の中で触れる文化芸術の事業」を継続することも必要であるという助言に対しては、令和4年度に実施したストリートピアノを継続展開していくとともに、区民が身近に文化芸術に触れるアトリウムコンサートを再開した。</p> <p>施策1-2 (1) 「芸術性の高い公演を子どもたちに提供する事業の継続」への助言に対しては、「芸術鑑賞体験事業」「文化のちから体験会」など、芸術性の高い公演を子どもたちに提供する事業を引き続き提供する。</p> <p>施策2-1 (1) 「幅広い世代への情報発信と活動支援」の「若い世代への文化芸術活動への支援が拡大されることを期待する」との助言については、「東京藝大アーツプロジェクト実習」にて文化芸術の若手コーディネーターの育成を行っていることから、東京藝術大学からアドバイスを得ながら若い世代への支援策を検討する。</p> <p>施策2-2 (1) 「活動の成果を区外に積極的にアピールすることや、新しい文化芸術への支援」の助言については、障がい者アート展のデジタルアートミュージアム開催時に行ったプレスリリースや地域の伝統行事「じんがんなわ」の動画発信のように、積極的に区内外へ発信していく。また、えんチャレ無料公演の共催などの支援を行い、区民の自発的な文化事業の創出につなげていく。</p> <p>施策2-3 (1) 「区民の活動が土、日、祝日に集中することなどの改善について、区民のニーズに応えられる施設利用の仕組みに期待する」との助言について、現在の利用実績の分析と民間施設の利用提案を発信していく。また、えんチャレ事業の会場利用は天空劇場だけでなく、生涯学習センターや各地域学習センターの利用へ誘導した。</p> <p>施策3-1 (1) 「リアルとオンラインの融合による新たな可能性の追及を期待」「若い人達が、デジタ</p>

令和4年度の評価（令和4年度報告書から）	令和4年度の評価の反映結果（令和5年度評価シートから）
<p>集中することで、稼働率が悪い印象がある。現在の民間を含めた施設のさらに詳細な調査と分析によって、利用の提案を情報として発信し、区民の文化芸術活動へのニーズに応えられる施設利用の仕組みに期待する。</p> <p>(2) さまざまな事業の提供、支援、施設の運営などが、一貫した区文化芸術推進計画であることをロゴ、キャラクター、スローガンなどで具体的に周知することが必要である。</p> <p>(3) 若い世代の芸術文化活動への支援が拡大されることを期待する。</p> <p>5 指標に関すること</p> <p>リアルイベントが前提の企画ではコロナ禍の大きな影響を受けたが、担当者の工夫と努力、デジタルの活用などで大きな成果が得られた事業もある。このような事業の中には、現在の「指標の定義」では実績値がカウントされないものもあるので再考が必要である。また、ゲーム等のこれまで文化芸術の領域になかった新しい分野についても、今後は視野に入れる必要がある。</p>	<p>ルから実物に接することで、新たな文化等の創作に発展すること」との助言については、郷土博物館の音声ガイドや電子展覧会での伝統文化鑑賞の体験などにより、リアルとデジタルを活用した事業展開を行った。今後も、それらの成果を文化財や伝統文化に活かしていく。</p> <p>施策3—2</p> <p>(1) 「単に過去の文化財を保存するだけでなく、住民が主体的に関わる斬新な取り組みや『新たな郷土芸能の創作・育成』などの活動が期待される」に対する助言については、地域の伝統文化「じんがんなわ」を映像化し発信したように、今後についても、郷土芸能等のデジタル映像化により、正確な保存と技術の伝承を行い、後進育成につなげていく。</p> <p>施策4—1</p> <p>(1) 「区文化芸術推進計画をロゴ、キャラクター、スローガンなどで具体的に周知することが必要である」との助言については、他の周年事業のロゴ使用の状況も踏まえて検討する。</p> <p>(2) 「現在の「指標の定義」では実績値がカウントされないものもある」との助言については、この施策に紐づく事業の達成度が全てAにもかかわらず、成果指標ではその成果が確認できないため、効果的な情報発信かどうかを確認するべく、文化芸術イベントのホームページ閲覧数を新たな指標に設定した。</p> <p>施策4—2</p> <p>(1) 「足立区独自の文化芸術の創出と継続のために、若手アーティストの北千住への集積や創業支援のような文化芸術の産業化発展に期待する」の助言については、提言の「産業化発展」には着手していないが、千住を中心に活動している「音まち千住の縁」や、えんチャレ登録団体を支援することで文化芸術の産業化のきっかけづくりにつなげていく。</p>

文化芸術推進計画 評価実施状況（令和5年度）

令和5年度の助言（令和5年度報告書から）	令和5年度の助言の反映結果（令和6年度評価シートから）
<p>助言総括1 文化資源の次世代への継承</p> <p>足立区独自の歴史・文化の調査が進み、その成果が順調に公開されている。特別展「琳派の花園」「あだちの拓本」「足立の学童疎開」では、述べ11,293人の来場者があり、「足立区の文化財」のサイトでも、「足立史談」、「文化財デジタルマップ」などで詳しく調査結果が紹介されている。郷土博物館のサイトも「おうちミュージアム」「ビビビ美アダチ」「バーチャルツアー」など非常に充実している。</p> <p>区文化財の保存と利活用に関して、計画的に保護する仕組み作りに期待したい。特に、伝統行事の映像化や、古民家のリノベーションなどの好事例を、メディアなどを積極的に使って区外へも紹介してほしい。子ども達が取り組みやすい、外国人が参加しやすい「文化の継承」についても考える必要がある。</p> <p>(1) 貴重な文化資源を活用した、新しいテーマ性のある企画展の開催を期待する。</p> <p>(2) 足立の歴史を知るイベントの計画的な開催（例えば「外国人旅行者を対象とした企画」のような、新しい視点から発想された企画）を期待する。</p> <p>(3) 小学校・地域学習センターへのアウトリーチの充実を期待する。</p> <p>助言総括2 連携や交流の創出によるプラットフォームの形成</p> <p>「仲町の家」や「コンサート in ミュージアム」は、足立区独自の文化施設として機能している。藝大連携事業のアウトリーチ・コンサート「六町ミュージアム・フローラ」など、質の高いコンサートの継続を評価したい。「コンサート in ミュージアム」は区内5施設を使ったユニークな企画だが、それぞれの施設が年間一回の企画なので、例えば「1日の内に5施設同時開催（各施設毎に異なるスタイルの音楽プログラムを短時間で数回）」区民が普段関心の無い音楽ジャンルを体験する機会になるような企画があっても良いのではないか。アートプロデュースから発想された、このような新しい企画を期待する。</p> <p>6大学による連携の取り組みとして、「夢かなえよう。with あだちの6大学」などが実施されており、区内には17,000人の大学生が在籍している。今の足立区には、大学を活用することで文化芸術を発展させる大きな可能性があるのではないか。</p> <p>新しい企画に継続性を持たせるために、活動支援やスポンサーを探す仕組みも必要である。これまでのように足立区が施策として提供するだけでなく、将来的には、足立区から生まれ継続して発信されるような、新しい文化芸術への支援が期待される。</p> <p>プラットフォームの形成は手段であって目的ではない。原点に戻って、何を指すべきかの検討が必要である。例えば、「連携」と「交流」の成果を分けて考えることで、よりプラットフォームの役割が明確になるのではないか。</p> <p>(1) 大学を活用した連携事業の発展に期待する。</p> <p>(2) 文化芸術交流会（足立シティオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区民合唱団の音楽3</p>	<div data-bbox="1596 1037 2588 1304" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>令和6年2月に計画を改定した直後であったことから、令和6年度評価（令和5年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。</p> <p>なお、令和5年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。</p> </div>

令和5年度の助言（令和5年度報告書から）	令和5年度の助言の反映結果（令和6年度評価シートから）
<p>団体）の開催によって、足立区に新たな音楽文化が生まれることを期待する。</p> <p>助言総括3 情報の集約及び効果的情報発信の強化</p> <p>アナログとデジタルのような異なる情報の活用は、年齢よりも分野の違いによることが報告されている。情報発信は、分析を元にきめ細かく行われなければならない。また、情報の収集については、用語の内容が発信者と受信者でギャップの無いように共有されているか、確認が必要である。区民の文化芸術のイメージは「琳派の花園」のような企画であると誤認しているのではないか。足立区は、地域学習センターの催し物のような、日常的な文化芸術の提供も数多く行ってきた。区民に、これらも重要な文化芸術であるというアピールが必要である。</p> <p>ソーシャルプラットフォームは日々進化している。区民が必要とするデジタル情報に到達できるように、区が提供する文化芸術に関する情報発信ページの効果的なデザインについても検討をお願いしたい。</p> <p>(1) 「誇り」「満足度」「文化芸術」などの言葉の解釈には大きな幅があるので、区民へのアンケートでは、定義をより丁寧に説明することが必要である。</p> <p>(2) 文化芸術の推進につながる普及活動では、「関心喚起」や「行動生起」※1へ繋がる「きっかけ」が重要である。効果的な「きっかけづくり」が期待される。</p>	<div data-bbox="1590 625 2588 890" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>令和6年2月に計画を改定した直後であったことから、令和6年度評価（令和5年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。</p> <p>なお、令和5年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。</p> </div>

令和3年度 アンケート調査項目一覧(16歳以上用)

分析の視点を以下の項目で整理し、設問との対応を表に記載しています。

- 1 各分野がひとやまちにもたらす効果を検討する
- 2 関心・行動の度合いを高めるターゲットを絞り込む
- 3 ターゲットに応じた施策を検討する
- 4 経年変化、施策・取組の達成状況等を把握する
- 5 コロナ禍の影響を把握する
- 6 その他

(1)一般区民向け調査

	設問	分析の視点						ねらい	所管課検討案				
		性・年代等の基本属性について							新規	継続	削除	変更	(変更の場合) 変更理由・変更内容
		1	2	3	4	5	6						
1	性別		○	○	○			分析軸として活用します。(例:年代、年代-性別 等)					
2	年代(5歳年齢階級)		○	○	○			分析軸として活用します。(例:未成年、若年層、高齢者 等)					
3	居住地区		○	○	○			分析軸として活用します。(例:地域学習センターの設置地区 等)					
4	職業		○	○	○			分析軸として活用します。(例:職業の有無別)					
5	子どもの有無		○	○	○			分析軸として活用します。(例:子どもの有無別)					
6	18歳未満の子どもの人数		○	○	○			分析軸として活用します。					
	文化・読書・スポーツに対する関心について	1	2	3	4	5	6	ねらい					
7	文化・読書・スポーツの関心の有無	○	○	○	○		○	各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○			指標3

8	(文化に関心ある人のみ) 文化に関心を持つようになったきっかけ			○	○			文化芸術における関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。	○			
9	(読書に関心ある人のみ) 読書に関心を持つようになったきっかけ			○	○			読書における関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
10	(スポーツに関心ある人のみ) スポーツに関心を持つようになったきっかけ			○	○			運動・スポーツにおける関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
文化芸術について		1	2	3	4	5	6	ねらい				
11	関心のあるジャンル			○				関心のあるジャンルを把握します。	○			
12	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。	○			指標4
	(鑑賞したことがある人のみ)文化芸術情報の入手ツール		○	○	○			情報発信の効率化を目指し、区民の情報収集手段の傾向を把握します。	○			インターネット、SNS、テレビやラジオ、あだち広報、口コミ、ポスター・チラシ、、雑誌や新聞…など
13	(鑑賞したことがある人のみ)鑑賞の仕方(区内・区外)	○			○			「受動的に」「一人で」「主体的に」の視点で鑑賞の仕方を把握します。主体的に鑑賞する人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。		○		
14	(鑑賞したことがない人のみ)鑑賞しなかった理由			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。	○			

15	文化芸術に関わるイベント・講座の参加の有無	○			○			参加・活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。	○			指標8
16	(参加した人のみ)参加後の文化芸術に関わる行動	○			○			参加後の文化芸術に関わる行動の実態を把握します。		○		
17	文化芸術に関わる活動の参加の有無	○			○			文化芸術に関わる活動への参加の実態について把握します。	○			指標14
18	(活動している人のみ)活動の仕方	○			○			活動への関わり方について把握します。		○		
19	区内や地域の伝統芸能や文化財などの鑑賞・体験の有無	○			○			区内や地域の伝統芸能や文化財などの鑑賞・体験の実態について把握します。	○			指標17(19)
20	文化芸術を楽しむ人が増えるために必要な施策				○	○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。			○	「文化芸術に親しめる」という表現等を修正検討 指標1(22)、2(10,16)、 5、6、9、12、13、15、18 (20)、21、24、25、26
読書について		1	2	3	4	5	6	ねらい				
21	最近1ヶ月間における読書活動の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
22	(本を読んだ人のみ)読書の仕方	○			○			読書の仕方について把握します。				
23	(本を読まなかった人のみ)本を読まなかった理由				○	○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
24	電子書籍を活用した頻度	○	○		○		○	電子書籍を活用した頻度について把握します。				

25	過去1年間でおこなった読書活動	○			○				活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
26	図書館を利用する目的				○	○			図書館のサービスニーズを把握し、施策を検討するために活用します。				
	運動・スポーツについて	1	2	3	4	5	6		ねらい				
27	過去1年間における運動・スポーツの実施の有無	○	○	○	○			○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
28	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施頻度	○	○		○			○	運動・スポーツの実施頻度について把握します。				
29	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施場所				○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
30	(実施しなかった人のみ)運動・スポーツをしなかった理由				○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
31	過去1年間における運動・スポーツの観戦の有無(トップスポーツ・地域の運動会)	○						○	観戦している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
32	(観戦したひとのみ)観戦の仕方(区外・区内)	○						○	観戦の仕方について把握します。				
33	(観戦しなかった人のみ)観戦しなかった理由				○	○			観戦しなかった理由について把握します。				
34	過去1年間における運動・スポーツの支える活動の有無	○						○	活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				

35	(活動しなかった人のみ) 活動しなかった理由			○	○			活動しなかった理由について把握します。				
	文化・読書・スポーツに関 わる活動について	1	2	3	4	5	6	ねらい				
36	文化・読書・スポーツを楽 しむ人が増えることによる まちへの効果	○			○			各分野における関心・行動の度合 いが高い人ほど、まちへの効果に 対して肯定的な回答が多いと考 えています。				
37	「ちよいスポ」・「ちよいカル ル」・「ちよい読み」キャン ペーンの認知度		○	○	○			取組の認知度(参加状況)を把握 します。				
38	「ちよいスポ」・「ちよいカル ル」・「ちよい読み」キャン ペーンへの参加希望		○	○	○			取組への参加希望の実態を把握 します。				
39	コロナ禍を経て3分野に充 てる時間の変化について			○		○		(行動)3分野の活動の実態を把握 します。		○		
40	コロナ禍を経て3分野の活 動の満足度について			○		○		(行動)3分野の活動の意識(満足 度)を把握します。		○		
41	コロナ禍を経て3分野の活 動の仕方の変化について			○		○		3分野の活動の仕方の変化を把握 します。		○		
42	コロナ禍を経て3分野の活 動の仕方における対面での 実施の重要性に関する意 識変化			○		○		3分野の活動の仕方における対 面での実施の重要性に関する意 識変化を把握します。		○		
	あなたの日常生活につい て	1	2	3	4	5	6	ねらい				
43	人生100年時代を心豊かに 生きるための要素(意 欲)に関するあてはまり	○			○			各分野における関心・行動の度合 いが高い人ほど、人生100年時 代を心豊かに生きるための要素 等が肯定的な結果を示すと考 えています。				

44	人生100年時代を心豊かに生きるための要素(実践)に関するあてはまり	○			○			意欲から実践へのつながりの度合いについて把握します。				
45	ご近所づきあいや地域活動の有無	○			○			各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、社会関係資本を持つ回答者が多いと考えています。				
46	(ご近所づきあいや地域活動をしていない人のみ)ご近所づきあいや地域活動をしていない理由			○				ご近所づきあいや地域活動をしていない理由について把握します。				
47	区内の人とのつながりの有無	○			○			区内の人とのつながりの実態について把握します。				
48	足立区に対する愛着・誇り・推奨、可処分時間・所得の程度	○	○	○	○			各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、シビックプライド(愛着・誇り・推奨)が肯定的な結果を示すと考えています。可処分時間・所得のない人ほど、各分野における関心・行動の度合いが低いと考えています。関心・行動を高めるターゲットを明確にする際に活用します。				
49	自由回答(文化・読書・スポーツ)						○	各分野に対する区民の意見を把握し、必要に応じて計画内容を検討するための資料とします。				

問20 あなたは、次のことがどれくらいあてはまりますか。あてはまる番号をそれぞれ1つだけ選んでください。(そう思う・どちらかと言えばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない・わからない)		新規	継続	削除	変更	→ (変更の場合) 変更理由・変更内容
ア	足立区は文化芸術に親しめるまちである 指標1(22)				○	
イ	足立区の文化芸術事業を評価できる 指標2(10、16)					
ウ	足立区は子どもが文化芸術を楽しめるまちである 指標5					
エ	足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価できる 指標6					
オ	足立区は参加・体験型の文化事業が多い 指標9					
カ	足立区は文化芸術活動が行いやすい 指標12					
キ	足立区は文化芸術活動への支援を十分にできている 指標13				○	
ク	足立区は文化芸術活動の成果を発揮できる機会が十分にある 指標15					
ケ	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う 指標18(20)					
コ	文化芸術に関する区の情報発信に満足している 指標21					
サ	足立区の連携事業及び交流の機会は充実している 指標24				○	
シ	足立区は文化芸術の推進に力を入れている 指標25					
ス	足立区の文化芸術の推進施策を評価できる 指標26					

令和3年度 アンケート調査項目一覧(小5・中1用)

分析の視点を以下の項目で整理し、設問との対応を表に記載しています。

- 1 各分野がひとやまちにもたらす効果を検討する
- 2 関心・行動の度合いを高めるターゲットを絞り込む
- 3 経年変化、施策・取組の達成状況等を把握する
- 4 コロナ禍の影響を把握する

(1)小5・中1向け調査

①保護者向け調査

	性・年代等の基本属性について	1	2	3	4	ねらい	所管課検討案					
							新規	継続	削除	変更	(変更の場合) 変更理由・変更内容	
1	回答者自身の性別		○	○		分析軸として活用します。						
2	回答者自身の年代(5歳年齢階級)		○	○		分析軸として活用します。						
3	お子さんとの関係		○	○		分析軸として活用します。						
	あなたの文化・読書・スポーツに対する関心・行動の度合い	1	2	3	4	ねらい						
4	文化・読書・スポーツの関心の有無		○	○		各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○				
5	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○				
6	最近1ヶ月間における読書活動の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。						
7	過去1年間における運動・スポーツの実施の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。						
8	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施頻度		○	○		運動・スポーツの実施頻度について把握します。						
9	可処分時間・所得の程度(回答者自身・お子さんのため)	○	○	○		分析軸として活用します。特に、保護者の可処分時間・所得のない家庭の子どもほど、各分野における関心・行動の度合いが低いと考えています。関心・						

					行動を高めるターゲットを明確にする際に活用します。				
10	コロナ禍を経て3分野に充てる時間の变化について		○	○	(行動)3分野の活動の実態を把握します。			○	
11	コロナ禍を経て3分野の活動の満足度について		○	○	(行動)3分野の活動の意識(満足度)を把握します。			○	
	あなたのお子さんのことについて	1	2	3	4	ねらい			
12	お子さんの性別		○	○	分析軸として活用します。				
13	お子さんの対処能力のあてはまり	○		○	各分野における関心・行動の度合いが高い子どもほど、対処能力のあてはまりが肯定的な結果を示すと考えています。				
14	お子さんの学校以外での文化的な活動の有無	○		○	活動している子どもほど、対処能力や自己肯定感のあてはまりが肯定的な結果を示すと考えています。		○		
15	お子さんが文化・読書・スポーツを楽しむことで得られるもの	○		○	各分野における関心・行動の度合いが高い保護者ほど、各分野を楽しむことで子どもが得られるものに対して肯定的な回答が多いと考えています。				
	お子さんの小学校入学直前1年間の様子について	1	2	3	4	ねらい			
16	文化・読書・スポーツの関心のうち、お子さんが好きだったこと		○	○	未就学児の頃について、各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
17	お子さんの文化芸術的な活動の有無	○	○	○	未就学児の頃について、文化芸術活動の実態を把握します。		○		
18	お子さんが本を読んでいたかどうか	○	○	○	未就学児の頃について、読書活動の実態を把握します。				
19	お子さんにおける本を読む以外の読書に関わる活動の有無	○	○	○	未就学児の頃について、運動・スポーツ活動の実態を把握します。				
20	お子さんの運動・スポーツの実施頻度	○	○	○	未就学児の頃について、運動・スポーツの実施頻度について把握します。				

21	(お子さんに文化・読書・スポーツをさせなかった人のみ) させなかった理由			○		未就学児に対して、関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					
----	---	--	--	---	--	---	--	--	--	--	--

②児童・生徒向け調査

	3分野への関心について	1	2	3	4	ねらい	所管課検討案				
							新規	継続	削除	変更	(変更の場合) 変更理由・変更内容
1	文化・読書・スポーツの関心の有無	○	○	○		各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○			
	文化芸術について	1	2	3	4						
2	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無	○	○			文化芸術における関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○			指標 7
	(鑑賞した人のみ)文化芸術情報の入手ツール		○	○		情報発信の効率化を目指し、区民の情報収集手段の傾向を把握します。	○				インターネット、SNS、テレビやラジオ、あだち広報、口コミ、ポスター・チラシ、雑誌や新聞…など
3	(鑑賞していない人のみ)鑑賞するようになるきっかけ		○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。			○		
	読書について	1	2	3	4						
4	最近1ヶ月間における読書活動の有無	○	○	○		読書における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
5	(本を読んだ人のみ)読書の方法		○			読書の仕方について把握します。					
6	(本を読まなかった人のみ)本を読むようになるきっかけ			○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					
7	電子書籍を活用した頻度		○			電子書籍を活用した頻度について把握します。					
8	学校の図書館・図書室に行く頻度			○		学校の図書館・図書室の利用状況を把握し、利用していない子どもがどのくらいいるのかを把握します。					
9	(学校図書館に行く人のみ)学校の図書館・図書室に行く目的			○		学校の図書館・図書室の利用目的を把握し、利用を促進するための施策を検討するために活用します。					

	スポーツについて	1	2	3	4					
10	1週間あたりの運動・スポーツの実施頻度	○	○	○		運動・スポーツにおける関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
11	(実施していない人のみ) 実施するようになるきっかけ			○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
12	スポーツ観戦の有無		○			スポーツ(観戦)における関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
	自己肯定感・主観的健康観について	1	2	3	4					
13	自己肯定感・主観的健康観のあてはまり	○		○		各分野における関心・行動の度合いが高い子どもほど、自己肯定感・主観的健康観が肯定的な結果を示すと考えています。				
	あなたの日常生活について (コロナ禍での変化)	1	2	3	4	ねらい				
14	コロナ禍を経て3分野に充てる時間の変化について。		○		○	(行動)3分野の活動の実態を把握します。			○	
15	コロナ禍を経て3分野の活動の満足度について。		○		○	(行動)3分野の活動の意識(満足度)を把握します。			○	